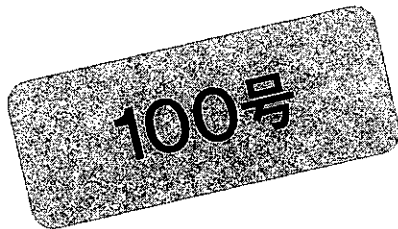


# Bulletin 100

## 目次

建築家の仕事	宮本 忠長	2
海外レポート	浜田 明彦	4
ほぞんもんだい	武蔵 靖之	6
クラブだより・中野	井村 五郎	7
Bulletinが100号を迎えました		8
新入会員のプロフィール		10
組織図		11
レポート 台湾・高雄市建築師 公會との親善交流	堀 奉博	15
レポート JIA大会'95軽井沢	松嶋 哲英	16
	渡辺 武信	17
	松下 重雄	17
レポート JIAトーク'95	近藤 経一	18
	藤田 正子	19
委員会部会報告		20
JIACOM通信		21
活動日誌		21
技術情報シート		23
建築シーリング材用紙製容器		
イベントセミナー情報		27
支部長のティールーム	斎藤 孝彦	28
編集後記		28



# 1996.1

社団法人新日本建築家協会

Japan Institute of Architects

関東・甲信越支部

〒150 東京都渋谷区神宮前2-3-16 建築家会館

Tel:03-3408-8291 Fax:03-3408-8294



# 信頼の強さとよい建築こそ



宮本忠長(長野)

東京のような大都市圏の中で、設計をする場合、設計者は誰か?、施工者は?ということを目にするのは余程、規模の大きい建物が記念館のように話題性の強いものを除けばごく稀のことです。

一方、地方で仕事をいと逆に、常に何かしら話題の種になるものです。その点、地方は建築家にとって、やりがいがあるところといっても過言ではありません。その代わり、良い話も悪い噂などもすぐに伝わってしまいます。設計だけに限らず、万事共通かもしれません、住宅など規模の極端に小さいものは別として、建造物などは大概、話題の対象となります。

一般に《東京の人の設計は、やはりひと味違う》と言われてみたり、逆に《東京の方に頼むとやはり、設計しつつ放して後々、面倒を見てくれないからメンテナンスに困る》等、好き勝手なことを聞くこともあります。

東京も地方でも施主は、設計者にパーフェクトを望んでいることに違いはありません。それで、少しでも期待から外れると減茶苦茶に設計者をこき下ろす、そのことが必ず、ソトから設計者の耳に入るのが地方です。

そんな中で私自身、約30年の歳月が流れましたが、施主と設計者の関係はいつの世も同じなのです。如何なる仕事でもひとつひとつキチンと行なう、その一語に尽きるのではないのでしょうか。仕事に手抜きは禁物、時間を重ねるほど良い仕事に繋がる、その当然との闘いです。

私が郷里である信州、長野市に帰った頃は知人の建設業の方々から《アレは東京で飯が喰えなくなって都落ちしてきた》と、落後者扱いです。自分の中ではその度、大きな落差のある意味、感じながら別段気にもかけず、いつの間にか歳月が経ち、爾来30年、今では全く別人のように信頼を得て(?)、建築士会(会長)などを通じて、同業者と社会的活動のお手伝い等もしている日常です。例えば、地方では運命共同体のように相互の繋がりが強い故、

(社)長野県建築士会の入会率も高く、有資格者の約45%にあたると言われていています。県下、全域で約1万名の1・2級・木造建築士が活躍していますから、建築士会は約4,600名の大世帯。一方、JIA長野県クラブの会員は約80名弱ですから、有資格者のうちの加入率は1.7%と小世帯です。

従って、県内は建築士会の存在が大きく、どうしても社会活動、まちづくりのイベント等の催事も建築士会が中心になってしまうのです。更に信州だけではないかもしれませんが、建築士会、学会、JIAと重複して加入している会員も多く、また事業所としても建築士会事務所協会に入会している事情が実態です。この辺が都市圏と異なる地方社会の構図です。

見方によれば窮屈な社会、呉越同舟の社会とも見えますが、冒頭に記しましたように情報がダイレクトに働き、迂闊な言動はできません。建築設計者は建築主の秘密を守る、施工者に対し一定の距離と凛とした姿勢、自らを律す厳正さ、これらを常に保ち、守らねばならないのです。それらの一角でも崩れてしまえば即、廃業と考えなくてはなりません。建築家とは、たいへんな職業としみじみ思いつつ、またそれらを護れる自分に誇りを持ち続ける至福に密かに喜びを味わっているのです。

## 実は厳しいコミュニティアーキテクト

そのような延長のなかでの小布施町との出会い。これも昭和40年からの関わりです。

栗ヶ丘小学校の設計を機に今日まで、公共建築物は私と私の事務所で担当しているのです。昭和50年に高師北斎の美術館の設計、それが起因で、まちづくりへと拡がり、北斎館周辺町並整備修景プロジェクトは一応、平成6年に完工するものの、まちの市民意識が高まり、今まで町内外からの来訪者が殆ど皆無であったこの町に年間100

万人を超える観光客がくるといふ物凄い変わりように大きく、貢献できた私達の事務所ですが今日、更に町や市民との間に強い絆が生まれ、週1日か2日は小布施町のどこかに仕事で動員されている現状です。小布施町では、平成2年景観条例を制定。中心となる機関として「まちづくりデザイン委員会」を発足。理事者、議会、町内有識者、商工会、建築家等との代表で構成。会長は建築家である私が仰せつかり、まちづくりへの最高の決定機関として効用を発揮しているのです。

例えば先般、高速道が町内の農村部を貫通することにより、S集落約30戸の農家住宅が集団移転する事業があり、「まちづくりデザイン委員会」は早速、対応を協議、建築家である会長がその指導権を持ち、一戸一戸の施主と建築について万事アドバイス、建築士や棟梁の紹介など更にマニュアルをつくり、全体像として整合を図り、その必要性を説き、根気よく語り合いを続け、毎週1回の定例住まいづくり相談日を利用し、結果は約1~2年をかけて、立派で見事なS集落の再現を果たした事例など小布施町という限られた地域を中心に職能をもって環境整備に奉仕する建築家の本領ではないかと自負もしている日々です。そのように私共の事務所のスタッフ一同も自ずとそれぞれの地域々に奉仕の気持ちで仕事を続けています。佐久地方の北御牧村でも南牧村でも村の公共施設をすべて私達の事務所が長い期間、10年、30年と仕事を続けています。偶々、小布施町は同町出身のスタッフ、久保隆夫チーフが直接担当。佐久地方は小諸市出身の荻原白チーフが担当、という具合にその地域の実情に委しく、人情に通じる関係が文節を弁えつつ、建築家の仕事を完遂してくれています。

いつの間にか、私の事務所のスタッフも生まれ故郷に密着しながら業務を担当していくようになってしまいました。これも、地方での建築家の活動のなせる業かもし



れません。しかし、今日では大規模の建築物など地方の建築家が設計監理をするというチャンスはありません。だからといって、地域の設計者が集まって、事業協同組合を設立して組織を拡大したといって、組合として大規模建築物の設計を担当するということは私は好みませんし、真っ向から否定します。所詮、建築家が100人集まったからといって、100の力を出せるものではありません。1の力の建築家が100人集まっても1は1です。私は、建築家の職能とはそんなモノではないかと最近、思っています。問題は、建造物の大小の序列でなく、施主と建築家が如何に信頼の強さの中で結ばれ、結果としてよい建築が完成し得たか否かなのです。

小布施のまちづくりでは、建築主は小布施町と町内の常住者です。個人という建築主から始まり、市民という建築主と私達、建築家は常に同在し、共に苦しみ、共に喜びを分かち合っているのです。地方は相互に顔がよく見えますから私達、スタッフは常に緊張の連続でもありません。ひと、それをよんで「コミュニティ・アーキテクト」と発言すれば、一寸いい感じです。が、現実は何と見てもほど恰好良くはありません。でも、文句は言えません。建築家は建築主の「お金」で作品を創らせて貰っているのですから。

<(株)宮本忠長建築設計事務所主宰>

# 1700年経て始まった ドンファンオロジー



浜田 明彦

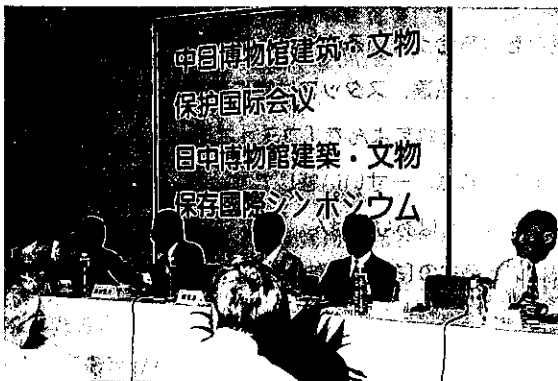
8月下旬、日中建築技術交流会・中国文物学会の主催により、北京の中国歴史博物館において、「日中博物館・文物保存 国際シンポジウム」が開催されました。

日中建築技術交流会は、1973年の創立以来、歴代の吉坂隆正、吉武泰水、その他の諸会長の努力により、建築技術に関するシンポジウム、学術交流を通じて日中両国の建築の発展に貢献してきた団体で、2年前は、山西省の大同、チベットのラサ等を訪問し、「日中文化財建造物保存技術 国際シンポジウム」を開催する等、現在の清水正夫会長のもと、積極的な活動を行っています。

中国は国際化が進む中で、中国の文化遺産が再評価され、博物館・美術館建築の動きが活発になってきており、日本の博物館建築の建築技術、保存・展示技術を紹介してほしいとの中国側の要請を受けて、今回のシンポジウムが開催されるにいたったとの事で、8月24日から3日間にわたり北京でシンポジウムを開き、その後ポストツアーとして安西榆林窟、敦煌莫高窟の修復現場、西安の兵馬俑2号坑発掘現場の視察等、通常のツアーでは体験できない貴重なプログラムを組んで開催されました。私は、昨年竣工した敦煌石窟文化財 保存研究・展示センターの建設に携わってきた事もあり、日本側のレクチャーの一員として参加いたしましたので、ここにその概要を報告します。

国際記念物遺跡会議（ICOMS）の伊藤延男（神戸芸工大名誉教授）、中国国家文物局古建專家の羅 哲文両先生

日中博物館・文物保存 国際シンポジウム

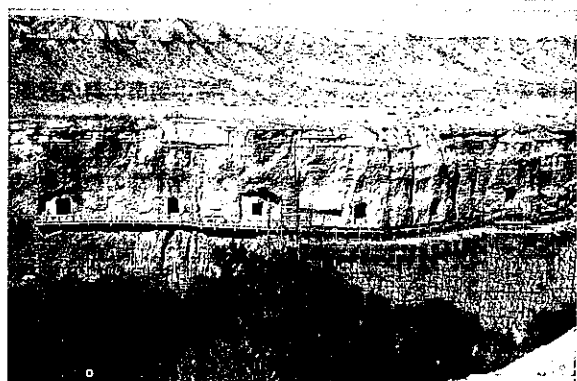


の基調講演に始まり、日中両国の建築、展示、保存、管理運営、防災に関する専門家が一同に会し、博物館・美術館を様々な角度から分析、解説して、多面的な展開となりました。とりわけ羅 哲文先生は、第2次世界大戦中、中国においてアメリカ軍の中枢に提訴し、日本の京都・奈良の歴史的建物を爆撃の対象としないように働きかけた学者の一人で、今、私が世界に誇る古都は、実はこうした国境を越えた文化人の努力によって生きながらえてきたと知るに及び、文物保護の国際シンポジウムにふさわしい、ある種の感銘を覚えました。

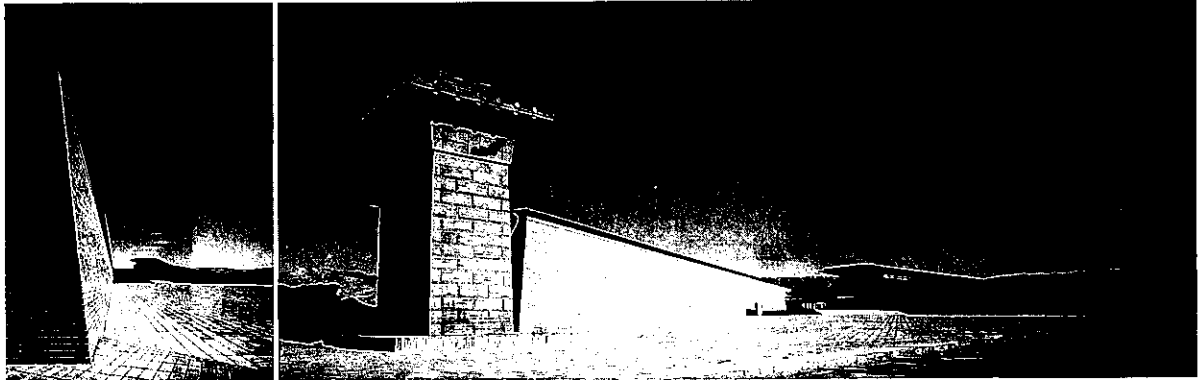
## 奈良と敦煌を結ぶ1本の糸

敦煌石窟文化財 保存研究・展示センターは、スライド約70枚を使ってプレゼンテーションしましたが、ポストツアーでこの博物館を訪ねることもあり、現地で見得ることの説明は極力避けて、プロジェクトの背景、敷地を選択していった経緯、建築と歴史的環境の関わりあい方等の他、外装材・屋根の形態等、クライアント（敦煌研究院）を説得するに苦労をした点について、約1時間半にわたり講演しました。敦煌石窟文化財 保存研究・展示センターは、世界の文化的遺産である敦煌莫高窟・千仏洞にせまりつつある窟の亀裂・崩壊、塑像・壁画の変色・剥落等の自然的破壊に対処すべく、窟の保存・保護と、学術的・美術的研究、及び8つの代表的窟の原寸大レプリカと遺物の展示を目的とした博物館で、1989年

榆林窟



海外レポート 日中博物館・文物保存 国際シンポジウム



敦煌石窟文化財保存研究・展示センター 高瀬良夫撮影

に外務省の無償資金援助プロジェクトとして始めました。

敦煌莫高窟は、緯度で日本の秋田県に、経度ではミャンマーに相当し、標高約1,500メートルの高地に位置し、また北のモンゴルまでは数百キロの近距離にある砂漠の中のオアシスで、日本からみれば不思議の国、さいはての地にあります。いわゆるゴビ砂漠（ゴビはそもそも土漠の意、正式にはタクラマカン砂漠）特有の乾燥地帯で、朝夕の温度差がはなはだしく、又、年間の降雨量も27ミリメートルという典型的な大陸性乾燥気候帯に属しますが、私の個人的な経験からすると、この1～2年は、年間の降雨量も通常の2倍の50ミリメートル以上に達し、昨年の春は大洪水となり、土漠のなかを川の先端が突き進む光景を目撃する等、異常気象とも思える状況が目立ちます。

莫高窟は、4世紀から約1,700年間にわたって築かれた大仏教遺跡で、鳴沙山とよばれる、ある断崖にそって約1.6キロメートルにわたり約500の石窟が築かれ、シルクロードにおいて、東西及び、南の青海省、チベットにいたる交通の要衝地として応年の栄華を誇ったオアシスの街です。全盛期の唐の時代に築かれた石窟の壁画のいくつかは、同時代の日本の法隆寺の金堂の壁画とルーツを同じくしていることは指摘されていますが、私はこのプロジェクトが始まって、あらためて法隆寺をたずね、約3,000キロメートル以上隔てた敦煌と奈良が一つの糸で結ばれていることを、ひしひしと実感しました。基本設計の途中、東京芸大の平山郁夫先生を団長としたミッションに参加し、中国側との打合わせの合い間に平山先生達と石窟を見学するチャンスに恵まれた際、奈良と敦煌の1本の糸についてたずねたところ、当時の唐の、ある“スクール”の画僧たちのうち、あるグループは日本

へ、別のグループは敦煌へ向かい、それぞれの傑作が、偶然にして残っているのではないかとのお話をきくことができました。敦煌の栄光も、航海技術の発達によるシルクロードの衰退に伴って、11世紀以降、歴史の世界から消えることとなりますが、20世紀初頭にスタイン等ヨーロッパの探検隊によって莫高窟が再発見されるまで、道教等の僧侶たちによって細々と守りつがれてきました。ところが1,000年もの歳月の経過は、いかんともしかたなく、前述した様な石窟の自然破壊、塑像・壁画の変色・剥落が進行し、また一部探検隊がもち帰ったこともあり、中国は開放前の1943年に敦煌芸術研究所（現在の敦煌研究院）を開設し、窟の保存と石窟文化の学術的研究を開始、その後ユニセフ、グティ財団、そして日本の東京芸大その他機関の資金的・人的援助をうけ、ドンファンオロジー（敦煌学）という新しい学問として各国に研究者が増えてきました。この博物館は、こうした研究者たちの研究をサポートする研究施設の一部であり、この文化遺産を広く、永く展示するための博物館であり、敦煌学は、1,700年の歴史からすれば、実は今、始まったばかりです。

ある石窟は隋の時代に築かれた後、元の時代に改修された等々、この莫高窟は、歴史の蓄積の中で現在まで受けつがれてきました。この博物館は、こうした歴史的・空間的環境を破壊することなく、景観と調和し共存する建築を基本的考えとし、この考え方に基づく20世紀後半の建築形態をとまっていますが、願わくは、時代・時代にその都度修復されながらもこの建築が莫高窟とともに、あと幾百年も維持され、敦煌の景観と環境を守る記念碑的存在となって語りつがれてゆかれない、と感じています。

<日建設計>

## ほぞんもんだい

## 保存問題地域開催経過報告

行政や市民の参加で  
地元へ浸透

武蔵靖之(新潟)

保存問題委員会は、創造・文化・環境など様々な視点で単体保存事例や町並み保存事例と取り組んでいます。また各県で生じる諸々の保存事例を地元で討議・展開する地域開催も重要な課題として取り組んでいます。1991年長野で地域開催が始動、1995年現在群馬県・栃木県・茨城県・千葉県で開催されました。栃木大会からはJIA会員に地元行政や一般市民も加わり、地元へ浸透した大会へと移行し役割の重要性を認識しております。

第1回長野開催は参加しておりませんが、1991年1月長野県クラブと委員会活動についての意見交換を、又、長野県クラブがスライドで松本地域を中心に保存活動を発表したと記しています。長野開催決定の要因となった県立長野高校ですが、地元では南校舎を保存する方向で進行中、委員会としても要請書を含め保存支援と記録されています。1992年6月第2回大会が群馬県磯部で開催、当地域は単体事例が多く広範に点在し、上毛歴史建築研究所の桑原氏が1つ1つ資金と戦いつつ集収されてきました。県や市の指定も少なく自然消滅の恐れがあるとのこと、委員会は全面バックアップで大会は終了しました。この大会後JIA群馬県クラブが多方面で注目される活動を展開されていると聞いています。1993年10月栃木県栃木市での第3回大会からはJIA栃木県クラブの他、栃木市や歴史専門家・蔵の会そして一般市民の参加があり、大会が更に深みを増しました。巴波川と例弊使街道に沿って使いながらの蔵の街の保存が中心テーマで積極的な意見が交されました。行政・蔵の会・住民・歴史専門家が5年がかりで歴史的町並みの整備・再生を行ない、今後更に整備・再生されるそうです。委員会も討議とエクスカージョンを通じ人的交流も含め一層の整備を託すと共に、地元活性化の一助になればと考えています。1994年11月第4回大会は急遽茨城に決まりました。茨城県土浦市での中心事例は阿見町茨城大学農学部として使用し

ている旧海軍士官食堂棟の保存問題でしたが、古い民家が県全域に点在し、さらに町並み事例も多く再び大会を開催しなければとの思いでした。一般参加に定着が見え討議に臨場感が漂う大会となりました。士官食堂棟は阿見町長立会いのもと移設保存で決着されそうですが、民家の保存は険しそうです。今後のJIA茨城県クラブの活躍に期待したい。1995年第5回大会は千葉県佐原市で「建築家の日」の行事の一環として6月に開催されました。小野川と香取通りを中心とした歴史的町並み保存が討論の対象で、今回はエクスカージョンから展開されました。明治・大正・昭和初期の蔵・洋館から成る美しい町並みも時代の流れの中で機能しない蔵から消え、20年前の調査で38%が消失しています。次第に使いながらの保存が再考され、昭和63年(1987年)保存を考える会が発足、平成7年(1995年)歴史的町並み景観条例に基き、市役所内に町づくり推進室を設置、「歴史を充分踏まえ小野川と共に使って残す」が確認されました。

最後に各県の事例内容・発生経緯の違いはあれ、地域の多くの人々の情熱が肌に伝わる思いでした。私達の時代に生き続けている文化や歴史的遺産を次世代へ引き継ぐ努力が必要と思います。委員会が多少なりとも一助となれば幸いです。

〈樹鷺建築事務所〉  
佐原市香取通りの町並み



# 工業製品と建築の新展開

## JIA中野クラブ建築家展'95に参加して



井村五郎（工業デザイナー）

JIA中野クラブは昨年に引き続き「中野区民まつり」に参加し『第3回JIA中野クラブ建築家展』を10月7日～12日の間中野区ZEROホールのB2F展示ギャラリーで開催した。メンバーの出品作品の中には、中野坂上の再開発、中野サンモールアーケード、恵比寿ガーデンプレイス、水保メモリアルコンベ入選作品等多彩であった。特に今回樋口会員が中心となり「心象風景なかの」の中で「中野駅北口広場を考える」をサブテーマとして井村氏と取組み、展示会としての一つの目玉となり、参画してくれた区長らも興味深く目を止めていた。入場者数は約250人、模型13点、心象風景11点、作品パネル50点、会員紹介パネル14点であった。会場の立地がもっとも良い所であれば昨年同様悔やまれた。また支部の役員の方々の来場が例年とは異なり皆無だったのには驚かされた。

<中野クラブマスター 東直彦>

9月の中旬、20年来の付き合いであるヒグチ設計の樋口修氏よりJIA中野クラブ建築家展'95で中野駅前広場のテーマに共同提案しないかと持ち掛けられました。中野に関しては10年前アイロード商店街リニューアル計画の手伝い等、大学のスタッフを含め親交がありました。今回駅前広場という興味ある課題であることから工業デザイナーの分際をかえりみず参加させていただきました。早速、中野区推進課を訪問し現在までの経緯、JR中野駅の成り立ち、土地のロケーション等を調べ、今後のありうべき方向性を摸索するための資料収集作業に入りました。調査資料が集まると予測していたことですがこれは大変な仕事であると反省致しました。区役所や議会の資料を拝見すると過去十数年にわたって沢山の設計事務所いわゆるコンサルタントが種々の開発構想を展開されており、時間経過のなかで住民、JR、商店会等との意見が衝突したまま現在に至っていることをまざまざと見せつけられたからです。ヒグチ設計との共同制作ということもあってお互いに投げ出すこともできず、我々の提案がどんなインパクトをもたらすかを考えると造形以前の問題ではないかと考えたときもありました。しかし工業デザインのワークも現状における問題を確認したうえでデザインとして可能な行為、すなわち造形のビジョンを示し、仮説の中でのリアリティを提示する事を考えモデル、模型制作に専念した次第です。

日頃感じていることに、製品をデザインすることと建

築設計との共通点、異なる点があります。両者に共通することは共に造形制作であることです。しかし決定的に異なるのは製品デザインにおいては大半が私企業の製造、販売すなわち、デザイナーは企業の組織を通じてユーザー、消費者に製品のかたちで間接的にコミュニケーションします。建築設計においてはプレハブメーカー等量産建築を別にして設計組織、個人建築事務所等では少なくともユーザー・オーナーとの直接的なコミュニケーションが大きなウェイトを占めます。建築は道具のようなある特定の目的、部分的有効性に奉仕するものに比べて総合的機能、効用を要求されます。また住居する、人が集まる等製品デザインのような単純な目的設定ではなく複合的、総合的で問題が複雑です。特に地面の上に造ることは物と違って、移動しないこと、少なくとも製品に比べて長い時間「存在する」ことです。量的影響力は製品にありますが、土地に深く関わる建築物は地域特性や人との密度の高い関係について考えることを要求されます。近代工業が育んだ現状の製品と同様、建築、環境は大きな転換点にあると言えます。本来製品も建築も生活の場では同時に存在することから異なったアプローチ、方法、領域という現状に問題があると考えさせられました。今回、短い時間での共同提案でありましたが種々考える機会を与えてくださったJIA中野クラブの皆様方、特に共同提案とはいえ部外者の参加に対して快く迎えてくださった東マスター、今回の幹事であられた香川氏、田村氏どうもありがとうございました。この会が益々発展されることを祈念して感想と御礼に代えさせていただきます。

<千葉工業大学 工業デザイン学科 助教授>

中野駅前広場計画案 ヒグチ設計+千葉工大井村研究室

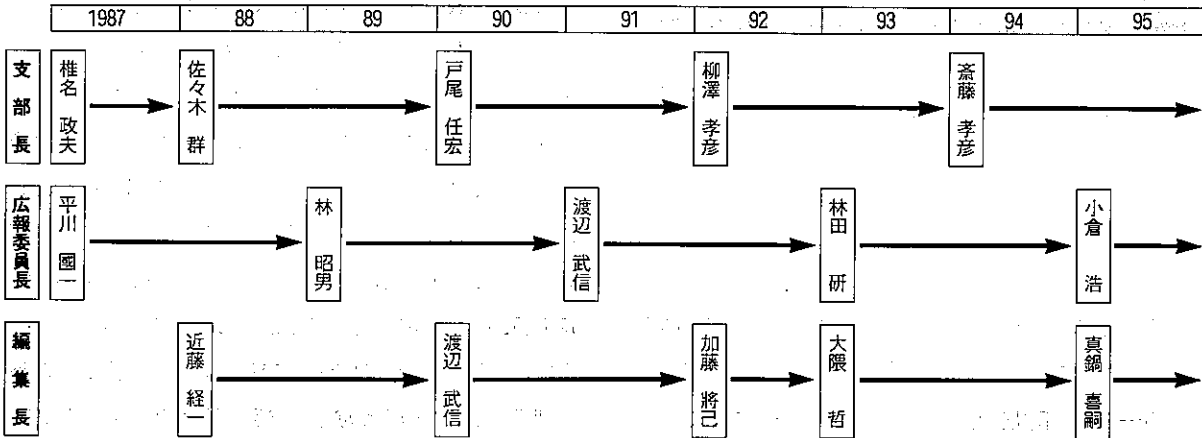


# Bulletinが100号を迎えました

「Bulletin」が創刊100号を迎えました。「Bulletin」は1987年5月のJIA設立とともに発刊されて以来、8年半の長きにわたり只の1度の休刊もなく(合併号を除く)、月刊誌として継続できたことは、歴代広報委員、事務局スタッフの努力の成果であるとともに、投稿を主体とする編集スタイルゆえ、執筆された会員全員の御尽力の賜物であると思います。

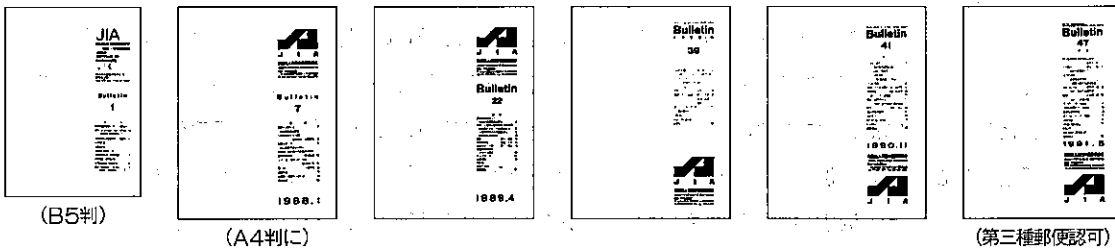
「Bulletin」は支部会員の活発な意見交換、情報交換の場であり、その役割はますます重要と考えます。ここに「Bulletin」が200号、300号とさらに巻を重ねることを祈念しつつ、創刊100号のマイルストーンとして、誌の変遷と執筆に御協力いただいた方々の全氏名を掲載しましたので御一読下さい。

## ①歴代の支部長・広報委員長・編集長



②歴代の広報委員 平川國一、大武通伯、松本嘉雄、近藤経一、益子義弘、篠田弘子、阿部博英、林 昭男、坪井善道、大隈 哲、加藤将己、飯塚 章、真鍋喜嗣、河辺和年、原 凱、新谷真理子、山口恵子、渡辺武信、夏目勝也、小沢聖子、桑本 洋、池永辰雄、今井 均、松枝雅子、林田 研、阿部 鞏、猪狩 茂、今井俊一、川岸梅和、郡山 毅、小倉 浩、中山庚一郎、藤本幸充

③Bulletinの表紙の変遷(90号からDTPを導入し、自主編集ページも作成)



## 関東甲信越支部事務局紹介



前列左より黄川田、関口、福森、坪内、後列左より中倉、口脇、菊地、原田

菊地良一/事務局長

主な担当：役員会、地域幹事連絡会議、委員長会議、部長会議、学生デザイン実行委員会、図面ライブラリー展実行委員会

原田譲治/事務局次長

主な担当：役員会、総務委員会、会員委員会、業務委員会、「建築家の日」企画実行委員会

坪内靖弘/事務局主任

主な担当：教育委員会、建築相談委員会、交流委員会、賛助会員事業企画

中倉 保/職員

主な担当：建築セミナー実行委員会、事業委員会、住宅部会、情報開発部会、オゾンデータベース

黄川田厚子/職員

主な担当：保存問題委員会、建築セミナー実行委員会、デザイン部会、業務部会

福森まゆみ/職員

主な担当：広報委員会、Bulletin編集WG、JIAトーク実行委員会、技術部会、会員部会、メンテナンス部会

関口靖子/職員

主な担当：会計全般、JIA中野クラブ、アーバントリップ実行委員会、学生デザイン実行委員会、学芸祭部会

口脇佳子/アルバイト

主な担当：賛助会員事業企画、書式販売、一般事務



あ 相澤英明、相澤正巳、相田武文、四十山茂勝、青木啓明、青木晴幸、青木幹男、青木安治、青木豊、青島裕之、青淵隆督、青山立美、赤谷達樹、赤羽輝臣、赤星義彰、秋山英樹、阿久戸春夫、明智克夫、朝倉泰夫、荻原太郎、足立一夫、足立圭介、安達治雄、H.L.アダムズ、阿南栄保、甘利享一、阿部一尋、阿部克正、安部貞司、阿部肇、阿部洋、阿部博英、阿部光伸、天茂彦、雨宮亮平、新居千秋、新井典夫、荒金透、荒木琢三、新基哲久人、有岡孝、蟻坂葉子、有田和夫 い 飯島勤、飯島宏治、飯田旭、飯塚章、飯塚保司、猪野忍、猪狩茂、池上宗樹、池田富士男、池谷富夫、池永辰雄、池野忠勝、池畑秀人、池村幸久、石井正三、石井千歳、石井敬明、石井俊行、石井寛美、石黒俊一、石崎一三、石巻根栄之、石田純男、石田文太郎、石田七朗、石田昌也、石橋攻、石橋正男、石原信、五十君興、磯城弘一、磯田和良、磯部和久、石動竹治、井澤潔、板橋克衛、板橋久雄、板野静一、市川悦郎、伊比源一郎、磯田博司、磯部和久、井澤潔、市川皓一、一色文枝、伊藤磐根、伊藤邦明、伊藤喜三郎、伊東国善、伊藤聡、伊東豊雄、伊藤信明、伊藤秀文、伊東正示、伊藤雅春、伊東幹雄、伊藤宗春、井野徹、井上信、井上尚夫、井上博、井上保彦、井上彌、今井俊一、今井淳子、今井均、今川憲英、井村五郎、入江元章、岩崎明、岩崎孝彦、岩崎哲朗、岩崎忍、岩崎英毅、岩瀬善明、岩田昭三、岩田洋、岩田稔、岩村和夫 つ ラファエル・ヴィニオリ、上田秋男、上浪由喜、上浪恒、上野明弘、上原憲二、上原宣明、植松英子、植松良三、ティヴィッド・ヴォーン、牛嶋守行、牛山邦雄、白田俊昭、内井昭蔵、内井康夫、内ヶ崎秀次郎、内川正人、内田雄造、宇野武夫、梅津庸郎、漆原智 へ 永嶋弘児、江口玉枝、江口正男、江国誠介、遠藤広士 お 近江栄、近江完治、大内一彦、大内宏友、大内靖夫、大宇根弘司、大川謙一、大河原淳一、大河原都、大木島清穂、大隈哲、大倉富美雄、大坂彰、太田勝造、大武通伯、大竹比呂志、大津達也、大辻敏朗、大中義夫、大野二郎、大野秀敏、大場一郎、大場昌弘、大原信之、大本勘市、大森康幹、大矢根雅弘、小川かよ子、小川嘉一、冲山季代、小越玲子、尾崎英二、岡整一、岡直登、岡秀隆、小笠原稔、岡田敦志、岡田成和、岡野覚、岡本眞之、岡本慶一、岡本翼、岡本亮久、岡村和臣、小川広次、小川眞樹、小籠忠英、奥村三男、奥村洋司、奥山陽子、小倉善明、小倉浩、小後博博明、尾崎英二、尾崎純英、小澤邦博、織田誠一郎、小田切善一、小野勝彦 か 香川精二、香川昌美、掛貝安雄、笠井章而、片岡幹夫、片桐義信、片倉隆幸、片重幸則、片峰雄志、片山和俊、片山幸則、勝畑良一、加藤勝二、加藤寛春、加藤幸三、加藤幸之、加藤将己、加藤真弓、加藤康、加藤義夫、加藤吉人、金井清隆、金子修司、金子英幸、金子寿彦、金子真奈美、金箱温春、兼松紘一郎、金川一郎、金田正夫、亀山慎一郎、神長一郎、神谷武夫、神村護、葛村浩男、鶴野晋江、唐澤勉、河合良夫、川上倫司、川上博、川口常彦、川崎幸子、川島順吉、川添智利、河田新一郎、川名広満、河辺和年、川端裕、川村善之、神田紀代子、菅野兼司、観音克平 き 菊地満、岸崎隆生、北川原温、木谷匡明、北原進、北村尚道、北村泰彦、木ノ本博通、木村俊介、木村誠之介、木村均、木村宏巳、木村先男、木下茂徳、姜尚益、清瀬永、清野明男、桐原武志 く 久木田龍郎、久寿米木康宜、朽木宏、久野和作、久保一誠、久保寺敏郎、熊谷義信、倉橋英太郎、栗原和雄、黒澤日出男、黒田正人、桑原弘、桑原稔 け 慶野正司 こ 小網健一、小池和子、古池廣行、幸田司、高達浩、河野進、河野正、河野幹男、河野好伸、テニス・コープ、郡菊夫、郡山毅、後関恵子、後関淳一、小島孝豊、小杉美樹夫、小菅栄、小玉祐一郎、後藤伸一、小西敏正、小橋精、小林英治、小林和教、小林祐子、小林正美、小林道夫、小林容子、小針三千夫、小松沢烈、五味道雄、小見山健次、小室清高、小室春夫、小森策雄、近藤経一、近藤武志、近藤知樹、近藤泰夫 さ 斎藤国雄、斎藤志揮子、斎藤孝彦、斎藤長光、斎藤年明、斎藤博、斎藤裕美、斎藤康弘、マーチン・サイミス、佐伯敏生、酒井浩、榊原克己、阪田誠造、佐久間量美、櫻井清、桜井公、佐賀和光、笹川正明、佐々木群、佐々木宏幸、佐々木昌克、佐々木稔、笹谷茂生、笹森裕悦、指田定男、佐瀬政憲、佐藤昭生、佐藤公紀、佐藤正二、佐藤隆二、佐藤伸一、佐藤孝明、佐藤卓司、佐藤武、佐藤文征、佐藤尚巳、佐藤洋、佐藤正條、佐藤正比古、佐藤友治、佐野元昭、三浦弘悦、三浦正美、澤いずみ、澤一郎、澤田薫、澤田和也 し 椎名政夫、堀川文雄、鹿野純彦、篠田弘子、篠原京、柴田幸夫、柴田陽三、柴山謙一、渋谷嘉寿、島津民男、島田克朗、島田俊之、島田善男、島貫俊秀、島村忠弘、清水一則、清水啓子、清水透、清水富美子、清水康博、下島恒雄、下妻力、下田進、社本博、白井いづる、白石賢司、白川正孝、白川浩司、穴道恒信、進藤哲雄、陣内秀悟 す 菅原森平、杉井左内、杉田和雄、杉本孝志、杉原健児、嶋山健治、勝呂忠司、鈴木彰、鈴木健二、鈴木晃司、鈴木篤、鈴木尚、鈴木貴紀、鈴木照男、鈴木伸哉、鈴木澄夫、鈴木哲夫、鈴木信宏、鈴木峰和、進来廉、須田善一、須田泰典、須藤祥夫、須永信一、住吉種郎、A.A.スルタン、須山善三郎 せ 関邦則、関五郎、関口治、関本和男、関本滋夫、関谷源次、妹島和世、瀬戸陽三郎、妹尾二郎、芹沢金一郎、千田満 そ 曾根幸一、園田巧、曾原国蔵、空本俊司 た: 高木昌三、高木恒英、高瀬静昭、高瀬裕、高塚良彦、高野重文、高橋和郎、高橋志保彦、高橋純好、高橋寛、高橋雅夫、高橋晶子、高橋美紀子、高松英二、高松恵子、高松敏夫、高村隆徳、高浜俊敏、高村隆徳、滝嶋昇、滝澤健児、滝田平庄、武井英子、竹内皓、竹内敏夫、竹内寿一、竹内寿子、竹内裕二、竹澤勉、竹島儀親、竹田恭子、武田博一、竹ノ内洋一郎、田島篤二、館清夫、立石博巳、田苗国男、田中敬郎、田中一夫、田中和道、田中桂治、田中清、田中誠次、田中修一、田中清治、田中俊彦、田中誠、田辺邦男、田邊博司、谷口純市、田島文隆、田原幸夫、玉川和正、田村孔一、田村志津夫、田村幸彦、田村泰顕、田村芳夫、丹下健三 ち 茶谷正洋、中善寺登喜次、中善寺紀子、崔康勲 つ 筒井英雄、堤昇三郎、土橋浩一、土屋中、土屋敷、土屋重文、土屋長命、土屋博、土屋美美、土屋芳英、津田勝弘、網野敬司、鶴巻昭二 て 寺井徹、寺尾信子、寺川典秀、寺本断子、天神良久 と 堂本隆司、戸尾任宏、土岐新、戸田巧、富岡貞二、戸村文彦、徳永圭治 な 内藤廣、永井繁美、永井純、長井義紀、戸塚慎治、長浦勝巳、中尾利弘、中込信、中里昇、長島孝一、永島久志、中島昭典、中島義兼、中田清、永峰富一、長沼純一郎、仲根修、中本浩二、中村克己、中村純子、中村崇、中村行雄、中村陽子、中山和俊、中山庚一郎、中山信二、中山川子、永山喜啓、夏間孝夫、夏目勝也、夏目幸子、成川正明、成沢福松、鳴川肇、南條洋雄、南部真 に 西川肇、西倉努、西田浩一、西野弘三、西原照享、西部明郎、西村光彦、西本幸生、西山茂、二山孝 ね 根来淳一、根津仁一郎 の 納賀雄嗣、野口明、野口幸男、野崎英彦、野沢正光、野原文男、野原良治、野宮尚樹、野村加根夫 は 羽根貞夫、芳賀晴美、芳賀康宏、萩村昭治、萩原克彦、萩原忠、長谷川賢治、長谷川正雄、橋爪隆、橋本清、橋本喬行、橋本正晴、橋本政美、橋本嘉夫、秦健、畠山秀保、畑能徳、波多江健郎、波多江ルイ子、畑川興郎、波多野純、波多野哲次、畑野喜邦、服部太一、服部範二、羽鳥修、羽鳥悟、羽生田八郎、浜田明彦、浜田守、浜田幸慶、林昭男、林明宏、林魏、林寛二、林昌二、林哲也、林尚武、林正樹、林雅子、林玲子、林田研、原逸穂、原凱、原田敬美、原田順、半谷良男、半貫一芳 ひ 東直彦、東由美子、東谷敏雄、比企丘陵、樋口修、樋口俊安、左知子、日名輝雄、平川國一、平島二郎、平田恭輔、平田寿敏、平沼照弘、廣田英二郎、廣政誠 ふ 富守直樹、福沢健次、福澤宗道、福田敬男、福田由弘、福富啓爾、福永有、藤井純子、藤井徹郎、藤井誠人、藤木良明、藤倉忠夫、藤田務、藤田努、藤田正子、藤田宗雄、藤波孝、藤範二彦、藤原晃、藤原宏史、藤原泰樹、伏見雅光、藤本幸充、藤森孝幸、藤佳正、古市和正、古田陽子、古谷重征 へ 辺見仁 ほ 保坂公人、保坂幸雄、星川晃二郎、梅崎果果、星野幸次、星野政彦、細貝良典、細川一、細田雅春、細谷進、洞理之、堀奉博、堀池秀人、堀江和彦、堀内幹夫 ま 前田信昭、前田裕幸、前原和征、真喜志卓、牧田美佐子、増野宏、増岡武正、益子義弘、増田実、増谷治郎、松家克、松浦基之、松枝京二、松尾孝雄、松岡國夫、松崎弘毅、松下重雄、松嶋哲装、松原和哉、松原忠策、松村和雄、松村慶三、松本清、松本金彦、松本陽一、松本嘉雄、松山龍夫、真鍋文樹、間々田好博、丸岡只一、丸山幸弘 み 美日剛、三浦清史、三上清一、三上祐三、三木哲、三澤謙、三柄邦博、水島伸一、水谷恵子、水野文嗣、水野隆文、溝端利一、三並愛司、南三一郎、南迫哲也、峯崎和彦、三橋晴司、三宅隆幸、宮崎孝雄、宮崎浩、宮崎良二、宮下清、宮島直樹、宮本五月夫、宮本忠長、宮脇壇、三輪正弘 む 向出恒雄、武蔵靖之、村井啓、村井祐二、村尾成文、村上秋雄、村上孝、村上稔、村上美奈子、村越正明、村田幾久夫、村田麟太郎、村松祐次郎、村山嘉弘、室伏次郎 め 目良純 も 望月光治、望月大介、本耕一、元木一三、森美保、森岡茂夫、森園安男、守屋浩、守屋弓男 や 安山宣之、柳井昭男、柳井照明、柳学、矢部照夫、山内彰、八巻郎、八巻利幸、山木正義、山岸竜司、山際二郎、柳澤孝彦、柳沢俊彦、柳親寛夫、山内彰、山口栄一、山口勝、山口恵子、山口洋一郎、山崎香澄、山崎博一、山崎精二、山崎隆基、山崎武昭、山崎雅雄、山崎隆造、山崎力夫、山里寿善、山路範幸、山下雅史、山田清、山田孝一、山田周平、山田守、山田雄二、山田隆宏、山中保博、山梨知彦、山本敏美、山本智雄、山本富士雄 ゆ 雪野潔、湯澤敦史、柚原治美 り 横井敦彦、横須賀満夫、横田智彦、横山朝夫、横山聡、横山修、吉岡三樹、吉岡亮介、吉川博行、吉田明浩、吉田晃、吉田隆興、吉田清三、吉田安子、吉武朗子、吉武創作、依田信一、依田政司、米澤正己、米田耕司、米田雅夫 わ 和気秀興、和田直行、和田真由美、和田恵理、渡辺清一、渡辺孝義、渡辺武信、渡辺建日子、渡邊武揚、渡部哲次、渡部英彦、渡辺安德、渡邊嘉雄、和智修、和智信二郎

## 新入会員のプロフィール

①会員番号 ②生年月日 ③出身地 ④出身高校 ⑤出身大学 ⑥事務所名 ⑦事務所住所 ⑧自宅 ⑨専門分野 ⑩メッセージ(経歴、作品、コメント)



**石橋 攻**  
ISHIBASHI OSAMU

①9501495  
②19410412 ③静岡県  
④県立静岡工業高校  
⑤  
⑥㈱大建設・横浜事務所  
⑦〒231 神奈川県横浜市中区弥生町2-17.  
☎045-251-6650 FAX045-262-5544  
⑧〒247 神奈川県鎌倉市大船2037  
☎0467-47-4762

⑨計画・意匠  
⑩スリランカ自動車整備工訓練センター・日本酸素㈱大阪支社ビル・ニカラグア日本国大使館事務所・小田原市野球場



**小池 和子**  
KOIKE KAZUKO

①9501525  
②19471225 ③山形県  
④県立山形西高校  
⑤日本女子大・家政・住居  
⑥㈱生活構造研究所  
⑦〒105 東京都港区芝公園3-1-8芝公園アネックス  
☎03-3459-0221 FAX03-3432-6778  
⑧〒157 東京都世田谷区南烏山2-6-6-204  
☎03-3307-6843

⑨計画・意匠・その他  
⑩設計連合、社建築設計事務所を経て現在に至る。建築設計・壁画デザイン・商品開発・調達



**観音 克平**  
KANNON KATSUHIRA

①9501614  
②19450801 ③石川県  
④県立大聖寺高校  
⑤東大・院・工・建築  
⑥郵政建築協会  
⑦〒105 東京都港区虎ノ門3-20-4  
常時連絡先：下記(自宅・研究所)  
⑧〒153 東京都目黒区駒場1丁目29-1-302  
☎03-3481-5790(FAX共)

⑨建築設計・歴史意匠研究  
⑩郵政省建築部から郵政建築協会へ。通信・郵政の建築を研究。近代建築の保存再生に力を尽くしたい。従事した主なプロジェクト及び設計作品：中京郵便局(京都)外壁保存計画、岡山中央郵便局、沖縄郵便局、広尾郵政宿舎、熱海郵便局、田園調布郵便局、葛飾郵便局、水戸中央郵便局、大阪郵便貯金会館(メルパルク大阪)



**滝嶋 昇**  
TAKISHIMA NOBORU

①9501584  
②19470225 ③東京都  
④私立昭和第一工業高校・電気科  
⑤  
⑥㈱大建設・東京事務所  
⑦〒141 東京都品川区東五反田5-10-8  
☎03-5424-8609 FAX03-5424-8619  
⑧〒300-12 茨城県牛久市文化町194-6  
☎0298-74-5454

⑨設備  
⑩長野看護大学・日本酸素つくば研究所・豊島区立アトリ工村・山口県下松市スポーツ公園余熱利用施設。



**根来 淳一**  
NEGORO JUNICHI

①9501509  
②19430904 ③大阪府  
④府立大手前高校  
⑤京大・院・工・建築  
⑥㈱大建設  
⑦〒141 東京都品川区東五反田5-10-8  
☎03-5424-8622 FAX03-5424-8619  
⑧〒142 東京都品川区中延6-1-15グランドール雅301号  
☎03-3782-9767

⑨総合・計画  
⑩スリランカ自動車整備工訓練センター建設計画、ルワンダ国中等技術学校建設計画、ドミニカ共和国初等学校建設計画等。建築を通じて開発途上国の発展に少しでも役立てたらと思っています。

— あんない —

## C A S

クライアント・アドバイザー・サービス

一般の方々が建物を建てたい、住宅を建てたいがどこへ行けば良いのかわからないという声が多いと出版関係の方々からもよく耳にします●JIAとして、このような方々への、一般の市民への最もベーシックな活動としての建築家の情報の提供です●CAS「クライアント・アドバイザー・サービス」：建築家の人となり、作品の写真が手軽に見られるファイルの展示の企画です●AIAでは支部が目抜き通りの一画にあり、ショッピングかたがた通りすがり、気軽にこのファイルを見られるとの事です●登録の応募要項は次号Bulletin1/15日号でお知らせします。

展示会場  
は  
住宅金融公庫  
そして  
東京電力の渋谷電力館  
住宅展示場エコハウス三鷹  
大宮テプコソニック  
と  
東電13支店の予定です

●  
CASファイル作成ワーキンググループ

社団法人新日本建築家協会関東甲信越支部 1995年度委員会構成

委員会	委員長	委員	担当幹事
業務委員会	徳江佑介	荒木憲三郎(新潟)、有田桂吉、奥村三男、関 邦則(長野)、高橋 孜、中尾利弘(千葉)、西倉 努、根本秀夫、林 延宏、宮崎孝雄、本木一三	奥村三男
総務委員会	山里寿誉	江黒家成、大竹比呂志、大河原淳一郎、上村保弘(長野)、澤 一郎、根津仁一郎(埼玉)、平山元英(神奈川)、藤本芳明(千葉)、山本富士雄	山里寿誉
会員委員会	高松英二	石原直次、今井 均、岩田 淳(神奈川)、上浪 恒、大河原淳一郎、菅 貞雄、高橋義明、谷口純市、出塚義夫、永長伸治(茨城)、左 知子、山田 守(千葉)	高松英二 左 知子
JIAトーク実行委員会	近藤経一	上浪 恒、清瀬 永、後閑淳一、関口 治、園田 巧、竹内裕二、高野康男、林 正樹	林 正樹
事業委員会	守屋弓男	赤谷達樹、大森康幹、岡本 賢、加藤宏之、神長一郎、清野明男、高橋雅夫、茶谷正洋、羽尾貞夫、三浦清史、木 耕一、山下 稔、渡辺益男	清野明男 守屋弓男
アーバントリップ実行委員会	神長一郎	今井 均、関口 治、高橋和郎、村上 稔	
教育委員会	相田武文	阿久戸春夫、小笠原 稔、金箱温春、高橋和郎、中村陽子、波多江健郎、原田敬美、松岡拓公雄、安山宣之、山田孝一(千葉)、弓良一雄、横山 聡、渡部哲次、河野 正、長谷川賢治/ : '95. 8月退任 : '95. 9月就任	相田武文 波多江健郎
建築セミナー実行委員会	波多江健郎	阿部光伸、内井昭蔵、大森正義、奥村桂一、勝又英明、川添智利、鈴木正治、高瀬静昭、竹内寿一、谷口宗彦、坪井善昭、半谷良男、嶺岸泰夫(神奈川)、吉岡亮介、吉川博行、平島二郎('95.11月退任)	波多江健郎
学生デザイン実行委員会	河野 正 長谷川賢治	飯島康司、飯野哲也、岡田淳志(群馬)、奥村洋司、児玉卓士、志村留美子、常盤木隆、中村行雄、松枝京二、山岸竜司、山崎精一、山崎雅雄 : '95. 9月就任、内ヶ崎秀次郎、大野二郎、下田 進(群馬)、中里 昇、六部穂子/ : '95. 8月退任	大野二郎
図面ライブラリー展実行委員会	小笠原 稔	大内一彦、加藤義夫、郡山 毅、児玉卓士、小林和教、芹沢金一郎、野村加根夫、畑 龍徳、松嶋哲英(神奈川)、山崎雅雄	野村加根夫 松嶋哲英
広報委員会	小倉 浩	阿部 翠、猪狩 茂(埼玉)、大隈 哲、郡山 毅、川岸梅和(千葉)、中山庚一郎、林田 研、真鍋喜嗣	小倉 浩
Bulletin ワーキンググループ	真鍋喜嗣	今井 均、大隈 哲、郡山 毅、渡辺武信	
交流委員会	小野勝彦	浅野盛治、飯田 旭、磯部和久、大竹 肇、大武通伯、勝俣昌平、川村眞兄、木村年男、桐木仁志、桐原武志、桑野 進、佐藤卓士、澤本東彦、清水克己、白井正義、杉田和雄、鈴木 賢、鈴木伸哉、武田 勉、田村泰顕、仲田 潔、平倉章二、藤岡憲政、前島正光、松浦 一、間宮英伸、宮下 清	小野勝彦
フレンズカップ大会実行委員会	桐木仁志		
賛助会員大会実行委員会	大武通伯		
建築相談委員会	山崎力夫	飯田 旭、木村廣子、岸崎隆生、嶋津民男、長谷川正雄、松村和雄、吉岡三樹、吉武創作、米田耕可、松浦基之(顧問弁護士)	嶋津民男 長谷川正雄
建築相談室	岸崎隆生		
保存問題委員会	夏目勝也	今井俊一(神奈川)、岡田義春(栃木)、兼松敏一郎、桑名寛一、高遠 浩(埼玉)、河野 進、小見山健次(群馬)、久保寺敏郎(神奈川)、倉橋英太郎(長野)、澤 一郎、島村忠弘、芳賀晴美(茨城)、武蔵靖之(新潟)	久保寺敏郎 島村忠弘
「建築家の日」実行委員会	波多江健郎	相田武文、飯田 旭、神長一郎、岸崎隆生、桐原武志、郡山 毅、小林正美、清水泰博(栃木)、瀧澤久男、谷口宗彦、長谷川正雄、深浦栄助、山口恵子、吉田 晃、渡辺嘉雄	相田武文 波多江健郎 吉田 晃
「建築家の日」委員会	波多江健郎	相田武文、吉田 晃	
国際交流支援グループ(仮称)	大塚 隆		

総務委員会

顧問：弁護士 瀬尾 信雄  
顧問：公認会計士 井澤 朋昭

本部 Tel.03-3408-7125  
Fax.03-3408-7129  
副会長・専務理事 中田 亨  
常務理事 井尻 寛  
事務局次長 高野孝次郎  
事務局次長 安田 雅子

本部 (当支部関連のみ)

- 理事会**  
会長 鬼頭 梓  
副会長 椎名 政夫  
副会長 中田 亨(専務理事)  
副会長 村尾 成文  
理事・支部長 斎藤 孝彦  
理事 小倉 善明  
理事 河野 進  
理事 青藤志揮子  
理事 服部 範二  
理事 林 昭男  
理事 三井所清典  
理事 宮本 忠長  
監事 須田 審一
- 業務委員会** 橋本 善行  
**総務委員会** 理事 服部 範二  
**会員委員会** 理事(東海)八木利喜彌  
**国際委員会** 理事 村尾 成文  
**事業委員会** 工藤 司朗  
**教育研修委員会** 穂積 信夫  
**広報委員会** 理事 河野 進

- 業務委員会** 橋本 善行  
**総務委員会** 理事 服部 範二  
**会員委員会** 理事(東海)八木利喜彌  
**国際委員会** 理事 村尾 成文  
**事業委員会** 工藤 司朗  
**教育研修委員会** 穂積 信夫  
**広報委員会** 理事 河野 進

- 選挙管理委員会** 光藤 俊夫  
**環境委員会** 吉岡 亮介  
**職責委員会** 野沢 正光  
**懲戒審査委員会** 横山 公男  
**建築相談業務委員会** 清瀬 永  
**組織問題検討会議** 鶴巻 昭二  
**会員情報検討会議** 大竹比呂志  
**建築資格制度検討委員会** 理事 椎名 政夫  
**JIA25年賞選考委員会** 理事 宮本 忠長  
**建築部品推奨制度委員会** 理事 三井所清典  
**図面館委員会** 林 昌二  
**JIA標準仕様書委員会** 西部 明郎  
**JIA都市災害特別委員会** 池田 武邦  
**JIAサマースクール実行委員会** 大谷 幸夫  
**JIA大会50周年実行委員会** 理事 小倉 善明  
**JIA大会50周年準備委員会** 理事 大竹昭三郎  
**10周年記念大会準備委員会** 佐々木 群  
**建築家国際交流基金管理運営委員会** 林 昌二

- 会長：全国直接選挙  
理事：支部別直接選挙  
副会長：会長指名  
委員長：会長任命  
監事：関東又は近畿支部別直接選挙  
委員：委員長推薦

情報ネットワーク (略称: JIACOM)

選挙管理委員会

支部長 江口 幸三(0)

役員会  
議長 西原 照享  
常任幹事会  
議長 西原 照享

- 副支部長 小倉 善明(1)  
副支部長 松原 忠策(1)  
副支部長 相田 武文(2)  
監査 小西 敏正(1)  
監査 青山 立美(2)

- 幹事長 西原 照享(1)  
副幹事長 小野 勝彦(2)  
副幹事長 高松 英二(1)  
常任幹事 大野 二郎(2)  
常任幹事 橋本 政美(1)  
常任幹事 林 正樹(1)  
常任幹事 左 知子(2)  
常任幹事 山里 寿豊(2)  
常任幹事 吉田 晃(2)

- 常任幹事 松橋 哲英(1)(神奈川)  
常任幹事 中尾 利弘(1)(千葉)  
常任幹事 溝端 利一(1)(長野)  
幹事の互選

- 幹事 久保寺敏郎(2)(神奈川)  
幹事 須永 信一(2)(神奈川)  
幹事 杉井 左内(1)(千葉)  
幹事 大内 宏友(2)(千葉)  
幹事 依田 信一(1)(埼玉)  
幹事 塩川 文雄(1)(茨城)  
幹事 清水 泰博(2)(栃木)  
幹事 松本 金弥(2)(群馬)  
幹事 小田切善一(1)(山梨)  
幹事 波谷 嘉雄(1)(新潟)  
幹事 安達 治雄(1)(中野)  
幹事 畑川 興郎(2)(中野)  
幹事 樋口 修(2)(中野)

- 幹事 奥村 三男(2)  
幹事 小倉 浩(2)  
幹事 河辺 和年(1)  
幹事 清野 明男(2)  
幹事 嶋津 民男(2)  
幹事 島村 忠弘(1)  
幹事 野村加根夫(1)  
幹事 長谷川正雄(1)  
幹事 波多江健郎(1)  
幹事 守屋 弓男(1)

( ) 以外東京(中野も含む)  
都県別(毎年半数改選)

支部長：直接選挙  
副支部長：支部長指名  
監査：役員会推薦  
総会承認

各県幹事連絡会議  
担当 高松 英二

委員長会議  
担当 西原 照享

委員会活動

- 業務委員会** 委員長 徳江 佐介  
**総務委員会** 委員長 山里 寿豊(幹事)  
**会員委員会** 委員長 高松 英二(幹事)  
**JIAトーク実行委員会** 委員長 近藤 経一  
**事業委員会** 委員長 守屋 弓男(幹事)  
**アーバントリップ実行委員会** 委員長 神長 一郎  
**教育委員会** 委員長 相田 武文(幹事)  
**建築セミナー実行委員会** 委員長 波多江健郎(幹事)  
**学生デザイン実行委員会** 委員長 河野 正(95.8月まで)  
委員長 長谷川賢治(95.9月より)  
**図面ライブラリー展実行委員会** 委員長 小笠原 稔

- 編集長** 真鍋 善嗣  
**広報委員会** 委員長 小倉 浩(幹事)  
**交流委員会** 委員長 小野 勝彦(幹事)  
**フレンスカップ大会実行委員会** 委員長 桐木 仁志  
**賛助会員大会実行委員会** 委員長 大武 通伯  
**建築相談委員会** 委員長 山崎 力夫  
**保存問題委員会** 委員長 夏目 勝也  
**「建築家の日」委員会** 委員長 波多江健郎(幹事)  
**国際交流支援グループ** 代表 大塚 隆  
委員長：支部長任命  
委員：委員長推薦  
支部長任命

地域活動

- 神奈川 JIA神奈川 代表 岩田 稜  
千葉 JIA千葉 代表 鶴巻 昭二  
埼玉 JIA埼玉 代表 依田 信一  
茨城 JIA茨城クラブ 代表 根本日出男  
栃木 JIA栃木クラブ 代表 小西 敏正  
群馬 JIA群馬クラブ 代表 松本 金弥  
山梨 JIA山梨クラブ 代表 小田切善一  
長野 JIA長野県クラブ 代表 須田 考雄  
新潟 JIA新潟クラブ 代表 波谷 嘉雄  
東京 JIA中野クラブ 代表 東 直彦

直接選挙

自由参加

会員

役員会： 会長 西原 照享、副会長 中田 亨、専務理事 中田 亨、常務理事 井尻 寛、事務局次長 高野孝次郎、事務局次長 安田 雅子、幹事長 西原 照享、副幹事長 小野 勝彦、副幹事長 高松 英二、常任幹事 大野 二郎、橋本 政美、林 正樹、左 知子、山里 寿豊、吉田 晃、松橋 哲英、中尾 利弘、溝端 利一、久保寺敏郎、須永 信一、杉井 左内、大内 宏友、依田 信一、塩川 文雄、清水 泰博、松本 金弥、小田切善一、波谷 嘉雄、安達 治雄、畑川 興郎、樋口 修、奥村 三男、小倉 浩、河辺 和年、清野 明男、嶋津 民男、島村 忠弘、野村加根夫、長谷川正雄、波多江健郎、守屋 弓男、近藤 経一、守行 謙次、恒 和光、佐賀 昭蔵、平島 二郎、上浪 恒、田村 泰顕、範幸 一郎、神長 誠人、後関 淳一、川添 智利、南條 洋雄、阿部 肇、滝田 庄平、吉田 晃(幹事)、島田 善男、木村誠之助、波多江健郎(幹事)、田中 謙次、香川 昌美、大竹比呂志、納賀 雄樹、井上 博、石井 敏明、山田 周平、水間 隆文、桐原 武志、田中 一夫、磯部 和久、広門 肇、松原 和哉、保坂 公人、河辺 和年(幹事)、松家 克、鈴木 浩夫、榊原 克巳、丸田 隆

部会活動

- 会員部会** 部長 近藤 経一  
・ミケランジェロ会 牛嶋 守行  
・テニスクラブ 田中 謙次  
・マスターズ 上浪 恒  
・ジャズファンの集い 佐賀 昭蔵  
・ペロセボネの会 内井 平島 二郎  
・ブリッジ愛好会 平島 二郎  
・スキー愛好会 上浪 恒
- デザイン部会** 部長 田村 泰顕  
・デザイン分科会 山路 範幸  
・交流分科会 神長 一郎  
・構造分科会 藤井 誠人  
・企画展示空間分科会 後関 淳一  
・保存分科会 川添 智利  
・都市デザイン分科会 南條 洋雄
- 業務部会** 部長 泉本 晋一  
・業際分科会 阿部 肇  
・地域分科会 滝田 庄平
- 住宅部会** 部長 吉田 晃(幹事)  
・対市民レクチャー分科会 島田 善男  
・第一分科会 木村誠之助  
・第二分科会 波多江健郎(幹事)  
・第三分科会 田中 謙次  
・第四分科会 香川 昌美  
・木質住宅分科会 大竹比呂志  
・国際住宅分科会 納賀 雄樹
- メンテナンス部会** 部長 井上 博  
・技術部会法令分科会 石井 敏明
- 情報開発部会** 部長 山田 周平  
・アンケート分科会 水間 隆文  
・AI分科会 桐原 武志  
・イベント分科会 田中 一夫  
・FM分科会 磯部 和久  
・OA分科会 広門 肇  
・CAD運営分科会 松原 和哉  
・CAD標準分科会 保坂 公人  
・CAD経営分科会 河辺 和年(幹事)  
・CG分科会 松家 克  
・設計資料DB分科会 鈴木 浩夫  
・都市データ活用分科会 榊原 克巳  
・パソコン通信分科会 丸田 隆
- 職能部会(仮称)** 部長 島田 克朗  
・学芸部会 部長 奥山 陽子  
・LF懇談会(95.10月より本部に移管) 佐々木 群

部会長：互選



社団法人新日本建築家協会  
Japan Institute of Architects  
関東・甲信越支部  
〒150 東京都渋谷区神宮前2-3-16 建築家会館  
Tel:03-3408-8291 Fax:03-3408-8294

顧問：弁護士 松浦 基之  
顧問：公認会計士 井澤 朋昭

事務局長 菊地 良一  
事務局次長 原田 謙治  
主任 坪内 靖弘  
職員 中倉 保 黄川田厚子  
福森まゆみ 関口 靖子

賛助会員大会  
フレンスカップ大会

- (兼種別) 正会員・グループ長  
グループA 田村 泰顕  
飯設・土木・杭及び地盤調査、コンクリート・鉄筋、鉄骨部門  
グループB 松浦 一  
防水、左官・塗装・吹付け部門  
グループC 森野 進  
ALC・PC・押出成形セメント板、石、タイル、屋根・金属、建具・ガラス・プラスチック部門  
グループD 清水 克己  
エクステリア、内装工事、家具、インテリア・材料部門  
グループE 勝尾 昌平  
電気設備施工、電気設備メーカー、搬送設備部門  
グループF 仲田 潔  
空調衛生施工、空調衛生メーカー、エネルギー関連部門  
グループG 磯部 和久  
CAD、情報処理部門

交流委員会

賛助会員

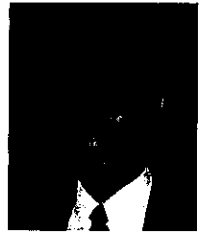
- 部門主幹(グループ別)  
グループA 社本 博 日本ヒューム管  
堀 幸博 日本セメント  
木本 達也 横河ブリッジ  
グループB 夏間 孝夫 ヤマデ  
今政新一郎 関西ペイント  
グループC 大野伊知郎 日本ヒューム管  
正月 和夫 エービーシー商会  
本間 栄 東陶機器  
花岡 捷彦 菊川工業  
和田 信行 ユニオン  
グループD 佐藤 忠 松坂屋  
黒田 國男 コクヨ  
内野 勇夫 トーソー  
グループE 上村 眞人 九電工  
木村賢太郎 TOA  
本山 未夫 上野製作所  
グループF 岡部 信正 東京電力  
木津 義雄 日立製作所  
大村 貴雄 東京電力  
グループG 山下 晴雄 インフオマティクス

交流

代表幹事 青洲 隆督 新菱冷熱工業  
片山 幸則 日新工業  
立石 博巳 ウッディ

支部組織図を外してもお使いになれるようにしました。

# “台湾式乾杯”から玉山 〔新高山〕登山の実現へ



堀 奉 博

関東甲信越支部デザイン部会の初の台湾建築界との交流レポートを、当誌1992年2月号に投稿しているが、そのタイトルは「見習うべくは、夫婦関係と登山同好会」とある。

台湾式乾杯は、日本式の「お流れ頂戴！」あるいは「さあ、一献！」とは違い、満たされたグラスを一諸に飲み干し、空になったグラスの底をそれぞれ見せ合って、その名の通りの乾杯であり、それを一対一でくり返すから、台湾の方の陽気な国民性と合わせてこちらの出来上りも極めて速い。この初訪台の折に、台湾式乾杯で意気投合した高雄市建築師公會の方達と約束したのが玉山登山である。

デザイン部会では'91年を皮切りに、'93年：技術セミナー、同年、公會富士山登山隊との交流、'94年はアジア大会広島会場施設の視察訪日団との交流、などと親善を深めてきた。今回の登山は'93年富士山登山隊の打上げ晩餐会の“台湾式乾杯”の約束の実行でもあった。

今回の玉山登山は去る10月2～8日の間、実施された。日本側から10名、台湾側から10名、計20名の大パーティは阿里山から車で1時間奥の鹿林山荘（中央気象局の招待所で特別に宿泊が許された）を初日の宿とした。夕食後の団樂はホールの床に車座になり、日中の言葉が飛びかう自己紹介などで、隊員同志はだんだんと打ち解けてきた。

標高2500mの登山口から3582mの拝雲山荘までが2日目の行程である。1年を通じて最も登山に適した季節の登山道の傍には、高山植物が点々と咲きほこり目を樂ませてくれる。山のスケールも大きければ、一枚岩の大

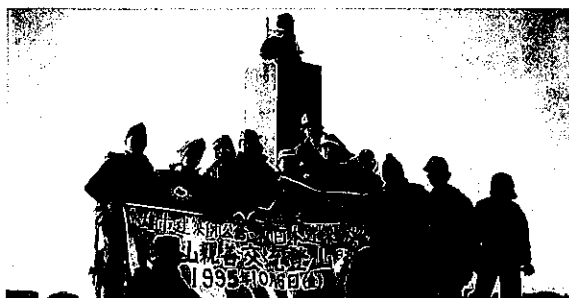
きさに目を見張り、ドッシリと根をはった樹々はさすが南国。日本では2500m位の森林限界が3800m位と、これ又亜熱帯の風情がうかがえる。

山小屋でのおかずが7品と、日本では考えられない豊富なメニュー。しかし、3500mの高さで高山病に罹りご馳走を前にして食が全く進まない隊員もチラホラ。3日目は払暁3時からの頂上アタック。ガイドを先頭にした隊列は2時間半を要して3952mの頂上に立った。身を切る0℃近くの寒気の中、雄大な日の出が太平洋の大海原から顔を表わし、日台建築家の友好交流を祝福してくれたものである。4年間育まれた交流が燦然と輝いた瞬間、1995年10月6日・午前5時45分であった。

これからの更なる交流のスタートが翌日、高雄市内で催された。昼間はセミナーが二つ。日本側からの阿部一尋会員による「日本の集合住宅の紹介」、午後は国立成功大学・傅朝卿副教授による「高雄地區歴史性建築（日據時期建築）再利用之研究分析」と題して、日本統治時代に建設された建築物の再利用状況についてレクチュアをうけ、傅副教授の案内により修復工事が行なわれている建物の見学会も引続いて行なった。交流の仕上げは公會・劉顯宗理事長招待による晩餐会。35名の賑やかな顔ぶれで和気あいあいと繰り広げられた。JIAリレー対談のため訪台出来なかった田村泰顕デザイン部会長のメッセージが代読された頃より、そこかしこの台湾式乾杯の輪が更にどんとどんと広がっていった。

これからの友好親善が大きく大きく育まれる予感を見せながら……。

〈日本セメント㈱〉



## レポート JIA 大会'95 軽井沢

〔エクスカージョン 美術館・別荘巡り〕

# 至福の1日



松嶋 哲 装 (神奈川)

朝夕の寒さは身に応えましたが、大会期間中天候にも恵まれ、総じて素晴らしい大会だったと思います。

3日目エクスカージョンAコース：美術館・別荘巡りをレポートし報告致します。前夜の宿泊先の関係で案内して下さる小宮山会員の第1班に参加しました。

今回のコースで吉村別荘は見学が難しいと伺って居ました。今まで3・4回吉村別荘の近くを通りましたが、使っておられ、道路が隣りの敷地より遠望するのみでした。設計事務所に勤め始めて1年目で、新建築で拝見し、大変感銘を受けたのを覚えています。

昨年図面ライブラリー展で吉村先生の中野の自邸を取上げさせて頂き、お会い出来る機会があればと楽しみにしていましたが、残念なことにチャンスに恵まれませんでした。今回敷地内に入れ、アプローチから見た紅葉をバックにした別荘の力強さと、大きく見えるのには改めて驚かされました。時間が許されればディテールまでスケッチさせて欲しかったと思います。

それでもここでの1時間はアツと言う間の出来事でした。次の脇田美術館でも、吉村先生の作品に出会うことが出来ました。ここは内部まで見学させて頂き、相通ずるスケール感と設計思想を資料を集め、改めて勉強させて頂こうと思っています。

ペイネ美術館：作家には興味がなく今まで尋ねる気もありませんでしたが、A.レーモンドの“軽井沢夏の家”の移築で尋ねて本当に良かったと思いました。

各見学先で時間が足りなくなって来ましたが、昼食時北澤別荘(旧A.レーモンドの“夏の別荘”)



間(ペイネ美術館オーナーの計らいで、美味しい昼食を安価で提供、その上準備も出来ており)を大幅に取り戻すことが出来ました。日本火災山荘を探すのに多少の時間的ロスがでたことと、狭い道にマイクロバスの駐車で住民から、警察に通報がありパトカーの警告を受けたりしました。今まで見てきた建物で興奮しているせいか、ここまで見にこなれば良かったと言うのが正直な気持ちでした。予定の時間に北澤別荘に到着しました。旧A.レーモンドの第2スタジオで、この作品も吉村別荘と同時期の作品で、バックの浅間山が雪をかぶり、かやぶきの屋根と廻りの木々がオーバーラップした写真が頭に残っており、いつかは直接目でふれて見たいと思っていた作品の一つでした。現在の所有者で建築家の北澤氏から直接A.レーモンドの話を興味深く伺うことが出来ました。私くしも勤務時代所長より「君らに設計を教えてやるのだから月謝を収めて貰いたい位だ」とよく言われたことを、懐かしく思い出しました。

最後の見学先は、三輪先生の案内で石井別荘と退官された外交官の別荘とご自分の別荘(当初夏をむねとすべく建てられた作品を外から断熱材を貼り、トタンですっぽり外套を着せ、通年型に改装され更に、隣りに別棟を増築)を内部まで見学させて頂きました。

設計者に直接案内して頂くなど至福の1日を過ごさせて頂きました。いつか時間を作りゆっくりと、別の季節に廻って見たいと思いました。

<松嶋哲装建築研究所主宰>  
吉村別荘 いずれも紅葉にはえカラーでないのが残念



写真は2点とも林雅子撮影

〔全国住宅部会の集い〕

## 建築家カタログ



渡辺 武 信

大会2日目の10月27日午後催された「全国住宅部会の集い」は、参加者が20数人程度でやや寂しかったが缶ビールを飲みながら和やかな話し合いが続いた。

座長の波多江健郎さんの挨拶に続き、支部ごとに活動報告が行なわれた。現在、住宅部会があるのは近畿、東海、関東甲信越、北海道にとどまり、九州の一部に県単位の住宅部会があるが、四国、中国、北陸、東北にはまだ部会が生れていない。そういう状況の中で住宅部会のない支部からも少数ながら参加者があり、将来の部会結成に向けての発言があったのはうれしいことだった。

多様な活動報告の中で、話題が集中したのは、住宅設計者と市民をつなぐ具体的手段のことであった。近畿支部が数年前に刊行した「建築家カタログ」が充実した内容にも関わらず1冊千円という低価格のため、大ヒットとなったことを受けて、東海支部が近畿のカタログの手引きの部分をそのまま利用した出版物を編集中のことである。良い先例を真似すれば二つ目は楽だから、早急な実現が期待されよう。これは真似した東海への批判ではもちろんなく、範を示すことで後続く仲間を助けた近畿への賛辞の意味である。

関東甲信越支部からは支部長・兼・住宅部会副部会長の斎藤孝彦さんが「クライアント・アドバイザー・サービス」の準備作業を報告した。これは住宅設計者のファイルをカラー・コピーで小部数作って住宅金融公庫の窓口などに備える企画で、ファイルの見本が今井均さんから示された。関東甲信越住宅部会は近畿に先立って住宅設計者紹介の出版物を刊行したことがある。しかしそれはカラー版にしたため高価になって、あまり需要がなく、また資料としても古くなったので、近畿・東海と似た形の「カタログ」も企画中ののだが、現状では「アドバイザー・サービス」用のファイルが先行する形となった。そこでファイルの原図を将来の出版の素材としてどう生かすべきかという議論もなされた。

< (株) 渡辺武信設計室主宰 >

〔大会雑感〕

## 印象に残った言葉



松 下 重 雄 (長野)

九州大会の終りに壇上から「信州へ、おいなよ!!」と私の住む伊那谷の方言で呼びかけてから1年はあっという間でした。多くの方が全国から集まり信州の秋を楽しまれホッとしています。大会テーマを振り返り私なりに印象に残った言葉をひろってみました。

伊藤滋先生「社会の変化の中でクライアントに迎合するも、反発するも建築家・・・」、横山禎徳さん「私の経営コンサルタントは建築家より曖昧で“ピンキリの世界”」、在塚礼子さん「身を削って活動している建築家が何故尊敬されない? それどころか建築家にまかせたら勝手なことをされると思われている・・・」、建設省住宅局長梅野捷一郎さん「建築家が何であるかはさんざんやってきた。社会側から見て建築家の存在が分る良いシステムとしての資格制度に期待し、それを世の中に裏書(保証)することに団体(JIA)の意義があるのでは? 社会にはこの裏書で充分通用する・・・社会に積極的に活動することが認知につながる」、山本浩三さん「医師も、眼科・外科などの看板は自分で決める。日本の建築家も国際化は必要であるが構造、設備など独自性のある仕組で発信を・・・」、鈴木崇英さん「建築家にウヌボシ、オゴリは有る。まちづくりなど出来ないことの方が多いのでは?」、JIA新人賞、園紀彦さん「著作権など社会に向けて運動出来る団体であれば、JIAに入会したい!!」等々でした。

環境・保存セミナーに出席し、市民の味方(代弁者)やパイプ役として次代のため、建築家が一人で何ができるのかを考えると、JIAの“新しい顔”として本格的な活動を願わずにはいられません。最後に、鬼頭会長は「JIAは会員のメリットのためにあるのではない・・・。」と言いつけてこられました。協調が成った今、出来れば「資格制度の確立こそがメリット!!」と求心力のある暖かいお言葉を添えていただけると有り難いのですが・・・。また、フランスの核実験抗議の声明文が採択されると良かったのと思ったのは私だけだったかも知れません・・・。

< みすゞ設計主宰 >



# 芸術に明暮れた16才



伊藤 三喜庵

JIAトーク'95(主催:JIAトーク実行委員会、協賛:日新工業(株))の第2回が、10月5日建築家会館1階ホールにおいて、伊藤三喜庵氏を講師にお迎えして開催された。テーマ『私の現代墨彩画論』を中心としたトークの他に、会場に120号の現在制作中の作品を持ち込み、実際に筆を入れて見せて下さるというパフォーマンスもあり、約80名の参加者も席を立ち、作品を取り囲んで拝見した。

## 主な経歴

1914年東京に生まれる。1938年日本大学工学部建築学科卒業。1952年伊藤喜三郎建築研究所設立。1983年より文芸春秋、講談社などの挿し絵を始め、1991年より2年間、読売新聞連載小説、津本陽『椿と花水木』の挿絵を書く。日本自由画壇理事長。

物心がついてきた16才のとき、女性でも恋愛でもない芸術だと明暮れていた時代がありました。今考えてみると私の人生のいろんな契機になっております。

16才のとき独立美術に入選したころ、たまたま上野の古本屋で見つけた本が藤田嗣治の出した本です。まだ画壇で有名でない彼が本を出したんですね。私はショックを受けました。その言葉をちょっと娘に読ませます。

## フォービズムに傾倒

藤田嗣治『バリーのプロフィール』-「私は向こうに着くといきなり、フォーブと申します野獣のような絵描きの集まっているモンバルナスという街に着いたために、すぐその群れに入ってしまいました。その人たちはセザンヌとかルノアールなどは40年前の人であって、われわれの仕事はもっと新しいものでなければならぬ、この世の中にわれわれはもっと新しいことをして、自分の責任を果たさなければならぬ、ところが私は恥ずかしいことにその時分、セザンヌ、ルノアールを知らない。むしろゴッホ、ゴーギャンの名前さえ知らないで、いきなりピカソの家に行ったのであります」とというような下りがありました。「それっバリーだ、こんな日本なんかにはられない」と私は思った。けどなかなか親父は許さない。「よし、日本にいても同じだ」と、藤田の言っていることを追及し分析していったんです。フォービズム-野獣派

の連中は何をやっているかという、みんな自分の育ったころのマチエールとか質感を持ってきて新しい創造をやっているわけです。私も金がないので万世橋で洋服の芯地を買ってキャンバスにて、それもいろんな調整をして、普通のキャンバスでは普通の絵になっちゃうから、とにかく少し変わったことをやろうというんなことをやりました。絵具のチューブが1本25銭で筆なんかではだめだと、ペインティングナイフでぎゅっとつけると、小遣い1回25銭がこれでアウトです。我が家の壁を足で蹴飛ばして白い粉を落し、それで絵具を作ったりもしました。

## 水墨画は時間の芸術

私の好きな言葉に「美の価値を決定づける要素はない。美はそれを認めぬものさえ働きかける。」美の力は偉大なんですね。私の説話ですが、「自然は神である。神は自然である。」スペインの奥にある洞窟の中に人間の掘った彫刻がありますね、人間の本能は神への祭儀である。人間はそれを掘っていると限りなく楽しく、音楽や文学と性格が違って、絵画というのは結構楽天的ですね。

美について考えているころ、いろんな哲学書が本屋を飾った。美学をやるにはまず哲学を究めなければと、夢中になったが、これが非常に厄介なんだね、かじろうとしている間に形象の心理学というのに出くわした。この中にクモのことが書いてある。クモが巣を造るときの形象に対するバランス感覚の素晴らしさ、そこでクモの研究をしようとした大きな箱に入れて飼ったことがありますが、クモは飼わないほうがいいですよ、朝、足がみんな下のほうに落ちてっいる。(笑)

現象を見て脳の視覚がそれを感じる。作家であればそこに思想のまとめがある、構想を通して構図が決る。それを表現の手段に移してゆく、水墨画の場合、和紙、墨絵具、水によって表現されるが、水の場合も、南画院の人で水の中に塩を入れて解決した人がいる、私もいろいろ

右ページ下へ続く➡

# 独特な作品の秘密に触れる

藤田正子（日本自由画壇所属）

今回「JIAトーク'95想」の企画を知ったのは、東京都美術館に於て、日本自由画壇（理事長 伊藤三喜庵先生）主催による「水墨画のシンポジウム」が開かれた8月末の時でした。そして会員である友人数人と共に参加しました。当日、先生は前年の読売新聞の朝刊、津本陽作「椿と花水木」の挿し絵の長い執筆のせいか多少お疲れ気味とはお聞きしていましたが、いつも通り軽快に時には一流のジョークもとび出すなど終始なごやかなお話し振りででした。

講演の内容としては、プリントに基づき、洋画から水墨画に転向された動機についてや、少年時代のお話、又先生が最も崇拜されておられる藤田嗣治画伯の「エコール・パリ」時代の本をお嬢様が読まれました。そして技法について、墨に砂糖やペパーミントを入れるなど珍しい技法のお話、会場に120号という大きな御自分の作品を持ち込まれての実演もあり少々驚きました。そして最後に司会者の方を混じえての質疑応答があり墨と色との関係、画面の大小についてなど、それについてのお答えはとても良い参考になりました。やがて講演が終り、



左ページより続く

な塩を入れてみたがだめで、ただ、おかしなことに砂糖を入れると、大きな画面をむらなく塗ることが出来る。ペパーミントがいいと言う人もいる。皆さんもいろいろと実験して勉強しあっては如何ですか。

最後に水墨画は西欧絵画にない特性を持っています。現

帰路につきながら私なりに今日の講演について色々と思いめぐらせてみました。先生の水墨画は「現代生活の空間にマッチした」作品が多く、和紙と墨との微妙な合体から生まれる摩訶不思議な幽玄の世界を人物、外国風景、佛画などをあらゆるテクニックを駆使されて、自由自在に見事にこなされ、その結果あの独特な「クールでデリケートな香り」のする魅力的な作品が生まれ他の多くの水墨画作家のそれとは全く異ったものであります。その「線」、「構図の取り方」、「マチエール」など先生以外の何人も追従する事は出来ません。それは多分日頃の猛烈なお勉強ぶりと勿論才能、育ちといった総てのものが混ざり合っただけの様な作品が生まれるのだと思われます。それ故早く御健康を回復なされて又新たな作品を製作なされ私達に感動を与えて下さる様願わずにはられません。

今回の体験は美術館とは又一味違ったフンイキのする建築家会館という事もあり何かとても新鮮な感じがしました。

そして今後のためにとても良い勉強になりました事を感謝いたしております。



代空間における和紙の意義。スピード感。リアリズムの限界がせまい。遠近法の無視。光線、陰影にこだわらない。書との同居。余白の意味。それに加えて筆の方向、ボカし、力の入れ方、そのいろいろの効果。極めて現代的な時間の芸術と言えると思います。 <リポーター 近藤 経一>

## 委員会部会報告

### 住宅部会

#### 9月例会報告

### 一般生活者向け相談室の開設 CASとOZONEの建築家DB

今月は「建築家をめぐる環境を整えるために」をテーマに提案及び論議がされた。

一つは、昨年の「建築家の日」の住宅部会主催のセミナー以来、若手会員を中心に続けられてきた、一般の人達に正しい建築に対する知識を得ていただくことを目的に情報提供の場を各種設定してきたが、その活動を、「くらしとすまいの相談室」として開設することが提案され、承認された。

これは家を建てることを前提とはしない一般生活者に対する相談窓口で、且つ、単なるコンサルテーションではなく、問題解決型の相談室とする。核となるメンバーで趣意書を作成し住宅部会会員から賛同する人達を募るもので開かれた部会活動の一環とすることが確認された。

次に、住宅設計を中心とする、建築家のデータベースの作成が、当部会でワーキンググループを作り進められていることの報告があった。

また、本部で検討されているCAS（クライアント・アドバイザー・サービス）の具体的な展開に対し、討議された。

次に、昨年来進められていたリビングデザインセンターOZONEのJIA建築家データベースの更新に伴う報告があった。

### 学生デザイン実行委員会

### 記念集発刊と記念フォーラムも

#### 委員長 長谷川 賢治

東京都学生卒業設計コンクールに対して日頃ご指導、ご鞭撻を賜りまして誠にありがとうございます。お陰様で来年度5回目を迎えていただく事になりました。これ一重に皆様のご協力と感謝致しております。私達の学生賞展も教育関係者並びに建築家の皆様に広く認知されることになり質の高い活動を展開しております。昨年度までの例といたしまして、神奈川、千葉、埼玉、長野、栃

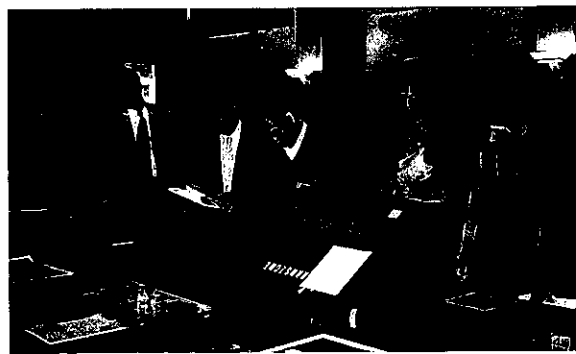
木、ペンシルバニア大学の学生卒業設計の招待作品を展示致しました。本年度は群馬クラブからの招待作品展示を予定しております。今後と致しまして、新潟、山梨、埼玉、茨城の代表作品を招待作品として展示させていただきたいと考えております。各県クラブの関係者並びに教育機関の皆様にご参加をお願い申し上げます。本年度の実行委員会活動を報告をさせていただきます。

■5周年を記念して第1回目から第5回目までの入賞者ならびに招待作品の『記念集』発刊

■委員会、実行委員会の増員（例：記念集担当）

■専門学校の参加について（現在各実行委員が調査、検討中）

私達、実行委員会は職業奉仕の一貫として後進の育成に強い関心を持ち、建築文化の向上と建築教育がもつ社会性を展開しております。今年度は横 文彦氏を審査委員長とした審査委員会選考の作品を新宿アイランドタワーにて展示いたします。多数のご来場をお待ち申し上げます。設計展の最終日には入賞作品及び建築教育について様々な観点から審査員、入賞者、各大学の指導教室、一般学生、建築家が参加しての記念フォーラムを開催いたします。予定といたしまして、4月下旬の審査会、コンクール入賞作品を中心と致しました展示を来る7月上旬に開催致すべく、月1度の定例実行委員会を開き準備を進めさせて頂いております。何卒ご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。



# JIACOM通信

# 活動日誌

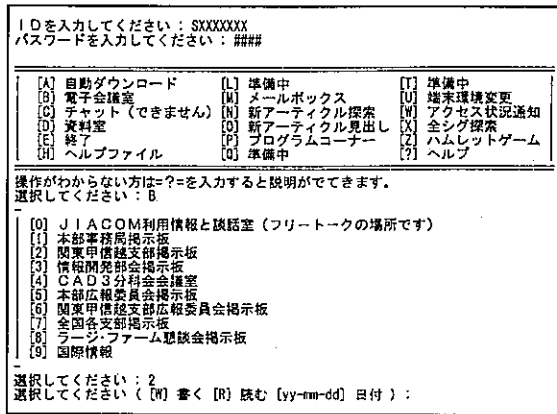
## 電子会議室の活用

河 辺 和 年

皆様の通信ネットワーク, JIACOMの数ある機能の中でも, BBS (Bulletin Board System) は文字通り掲示板の様なものですから, 会員間の情報交流に特に欠かせない道具と言えます。

このBBSは, JIACOMの第1メニューに「[0]電子会議室」と登録されておりますが, 会員間の情報交換や, IDの登録されている一部のマスコミなど, 外部に対する情報発信の場として活用されています。

システムを立ち上げて, JIACOMに入ると図のような画面となります。今ちょうど [0] を選択して, BBSのメニューが表示されたところを示しています。



現在のところご覧のようなメニューになっておりますが, 今年の2月に阪神大震災の情報収集のために暫定閉局して以来, 利用される方々のご意見を参考に何度か書き直され, これからも改良が続けられて行く筈です。

JIACOMは, 来年度から本部に移管されることになり, 全国的なより有効な活用が期待されます。

このJIACOMのご利用案内は, Bulletin 5月号から掲載しておりますが, これからご利用される方のために, INDEXを付け加えておきます。なお, 電子会議室の「[0] JIACOMの利用情報と談話室」の中にも掲載してありますので, これらの内容を読むことができます。

- 95年 5月号 今すぐ JIACOM を使ってみよう
- 95年 6月号 実際に JIACOM で通信してみよう
- 95年 11月号 JIACOM でメールを送ってみよう
- 95年 12月号 電子メールの使い方 その2

**J I A C O M アクセス方法**

- TEL 番号 : 03 - 3408 - 8509
- ID 番号 : 協会員は「S」+ 会員番号  
          : 協会員以外は「GUEST」と入力して下さい
- パスワード : 協会員は暫定的に「M」+ 会員番号  
              : 端末環境変更のコーナーで変更できます

## 9 月

- 14日 賛助会員Dグループ主幹・副主幹会議
- 14日 広報委員会
- Bulletin 12月号の編集方針を主な議題に話し合うとともに, 連載の「建築家の仕事」及び「海外レポート」執筆について検討した。
- 14日 交流委員会拡大幹事会
- 交流委員並びに賛助会員各グループ主幹が参加し, 役員会報告, JIA大会への呼びかけ, 交流委員会関連課題としての技術情報シートの各グループへの拡大の件, フレズカップ大会の件, 委員会構成の件等が話し合われた。
- 19日 東京学生賞展実行委員会
- 第1回学生デザイン実行委員会を開催し, 全体的スケジュール, 審査委員会構成, 対象の問題などについて検討が行われ, 審査委員長候補, 女性建築家候補の人選を行い, 各候補者への打診を行うことにしたこと, 対象の範囲については次回各自意見を持ち寄り検討すること, 学生賞のない県については地域の状況も加味して検討を重ねることとし, 特に群馬クラブに関しては対象範囲は別として招待作品としての検討を願うことにした。
- 19日 建築セミナー
- 講師に坂倉建築研究所代表取締役の阪田誠造先生をお迎えした。「私の建築」のテーマでサレジオ学園など阪田先生の作品のスライドを拝見しながら約2時間, お話をお伺いした。受講生は28名, OB4名が出席。
- 20日 アーバントリップ実行委員会
- 第19回アーバントリップについて当日のスケジュール等が話し合われた。
- 20日 総務委員会
- 活動報告, 財政問題についての検討, 各ワーキンググループの報告及び問題点の検討。
- 21日 情報開発部会
- 山田部会長以下8名が出席。9月6日~8日に開催されたA/E/C SYSTEM JAPAN '95の報告, Gグループ第1回見学会の報告が行われたあと, 情報活用フォーラムについて活発な討議が行われた。
- 21日 軽井沢大会ワーク打合せ
- 21日 LF懇談会・第3分科会
- 20~21日 賛助会員Cグループ国内建物視察会・長野

オリンピック施設他見学

22日 地域幹事連絡会議

各地域クラブの活動状況並びに組織検討会議試案の地域会、建築家資格制度、建築相談窓口などに関する検討状況も交え、報告及び意見交換が行われた。地域会に関する問題点、意見等については次回会合に各自より持ち寄り更に検討を重ねることにした。

22日 役員会

活動報告並びに大会参加状況、95委員会構成の確認、特に大会参加については各地域よりも多数の参加要請が行われた。また本部関連として理事改選、第3回リフレッシュセミナーへの各地域参加要請、阪神大震災総括報告会、耐震補強セミナー企画について報告があるとともに、支部役員改選並びに選挙管理委員会構成等の承認、検討が行われた。

22日 都市デザインセミナー

テーマを「東京のアーバンデザインを問う」と題し、講師に土田旭氏をお迎えして開催された。参加者83名。スライドを交えての講演は予定より30分程超過し盛会裡の内に終了した。

22日 会員委員会

役員会報告、入退会審査、「新会員の集い」企画のためワーキンググループ設置及びメンバー決定。

22日 軽井沢大会実行委員会

最終確認を行い、参加者の動員につき検討し、動員の呼びかけ方法を決定、実行することとした。

26日 法令分科会

「法は建物やまちなみに対していかに影響を与えているか」、「規制緩和について」を話し合った。

26日 賛助会員Eグループ・電気部会

26日 建築セミナー

講師に市浦都市開発建築コンサルタンツ・東京事務所長の阿部一尋先生をお迎えした。『集住体のデザイン』のテーマで、様々な集合住宅のスライドを拝見しながら約2時間、お話を伺った。受講生は24名、OB2名が出席。

26日 住宅部会

27日 教育委員会

カルチャー事業協議会との共同企画として10月より実施されるカルチャー講座（新築講座・見学会講座）の準備状況につき最終確認が行われた他、都内各自治体を対象とした市民向け建築セミナーに関するアンケート調査結果の中間報告が行われた。

27日 LF懇談会・第4分科会

27日 Bulletin編集ワーキンググループ

Bulletin11月号の最終構成が決定された。

27・28日 ミケランジェロ会・裸婦写生会

建築家会館1階ホールにおいて、定例の裸婦写生会が催された。参加者13名。

28日 選挙管理委員会

95年度委員会構成の確認並びに改選地域、改選役員の確認が行われるとともに、改選告示内容並びに選挙スケジュールの検討、確認が行われた。

28日 デザイン部会・企画商空間分科会

今年度の活動の方向と予定について検討を行った。

29日 事業委員会セミナー 世界びつくり仰天建築シリーズ 第2回詠み人知らずの建築

講師に写真家の藤塚政光氏をお迎えしINAXにて開催する。参加者52名。会場が明るすぎたためメインのスライドが見辛らく内容を生かしきれない結果となった。参加者の大方は満足というアンケート結果だったが後部席の参加者には不満もあり今後に課題を残した。

29日 建築家の日打合せ

29日 建築セミナー模型展打合せ

29日 賛助会員Dグループ研修会

テーマ：CG/CADでインテリア空間をデザインする、講師：堀内幹夫会員、井上淳氏、参加者：58名

10月

2日 賛助会員Bグループ講演会

テーマ：若きエースの心、講師：神尾米氏-テニスプレーヤー、中村江里子氏-アナウンサー、参加者100名。

3日 首都圏建築相談室報告会

首都圏建築相談室（9/7～9/27）での相談事例10件、住宅金融公庫建築相談室（9/8～9/27）での相談事例15件につき、各々担当相談員より報告が行われた。

3日 高齢者・障害者住環境ワーキンググループ

国立国会図書館関西館（仮称）  
建築設計競技募集案内

建設省より標記の建築設計競技設計案が募集されております。  
競技方式：一段階公開設計競技、登録申込受付期間：1996年1月16日迄、募集要項請求先：国立国会図書館関西館（仮称）建築設計競技事務局：〒100千代田区霞が関2-1-3中央合同庁舎3号館 建設大臣官房官庁営繕部内迄、宛先を明記した封筒（約33cm×24cm）と返信用切手190円同封のこと。

# 建築シーリング材用紙製容器

## シーリング材容器の産業廃棄物減量対策



芳賀 康宏

### 産業廃棄物の現状

環境庁「環境の状況に関する年次報告(平成5年度)」によると平成2年度に於ける産業廃棄物の排出量は3億9,474万トンで、3年度家庭ごみ排出量の約7.8倍となっている。産業廃棄物の総排出量の伸びを見ると昭和60年度比で26.4%増であり、これは同時期のGNPの伸びの26.3%とほぼ同じであり経済の成長に伴って廃棄物の排出も増加しているといえる。

総排出量のうち、最終的には約15,075万トンは再生利用され、最終処分量は約8,973万トンとなっている。また業種別の重量ベースの排出量では農業が最も多く全体の20%を占め、次いで建設業と電気・ガス・熱供給・水道業と鋼鉄業などの順になっている。

産業廃棄物の処理や処分については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」によって様々な規制が行われ、その適正な処理や処分が図られているが、最近では最終処分場の確保が大きな問題となっている。特に首都圏(茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県)における産業廃棄物最終処分場の残余容量は2年度には1,423万㎡しかなく、他県で処分している産業廃棄物も多い。

こうした最終処分場の確保の困難化は産業廃棄物の不法投棄の一因ともなっており、土壌汚染の増大の恐れが出ている。平成5年度では、建設工事から排出される建設廃材を中心として不法投棄された産業廃棄物は全国で145万トン(4年度は137万トン)にものぼっている。

このような状況の中で、2成分形建築用シーリング材の基剤容器はそのほとんどがブリキ缶に充填され、使用後は燃えないゴミ、鉄屑として埋設処理されており、その廃棄量は年数千トンになっている。このような産業廃

棄物を排出する建築用シーリング材の製造元として、産業廃棄物の削減を目指し、焼却可能な紙製による建築用2成分形シーリング材紙製容器を開発した。

### 不法投棄された産業廃棄物の種類別・場所別状況

	H.1	H.2	H.3	H.4	H.5
計(重量:t)	869,000	1,899,000	2,087,900	1,370,100	1,450,000
種類(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
建設廃材	89.2	88.1	63.0	97.3	70.0
汚でい	4.2			1.0	11.3
家畜ふん尿					9.4
廃プラスチック類			17.5	1.1	
廃油			9.9		
鋳さい		5.4			
その他	6.6	6.5	9.5	0.9	9.3
場所(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
山林・原野	83.0	74.5	80.5	56.1	47.6
水田・畑	8.4	12.2	15.3	40.8	10.0
河川・河川敷					7.2
その他	8.6	13.3	4.3	3.1	35.2

### 「埋設」から「焼却」へ

これが「紙製容器」の基本コンセプトです。

「紙製容器」の材質

缶—プラスチックフィルムをラミネートした再生紙

蓋—ポリプロピレン

把手—ポリプロピレン(鋳はスチール)

# 技術情報シート

## 「紙製容器」の特徴

1. 缶を簡単かつ安全に解体することができます。

使用後の基剤缶を廃却する時、ブリキ缶の場合、多くは皮スキや缶切りなどで底を抜き、潰して処理してる。「紙製容器」の場合は足で軽く体重をかけるだけで底を抜くことができる。

これは上方向および横方向からの応力に対しては使用に耐えられるように設計されているが、下方向からの応力がかかると、構造上簡単に底を抜くことができるからである。(図1参照)

写真1 解体した従来缶(上)と紙製容器(下)

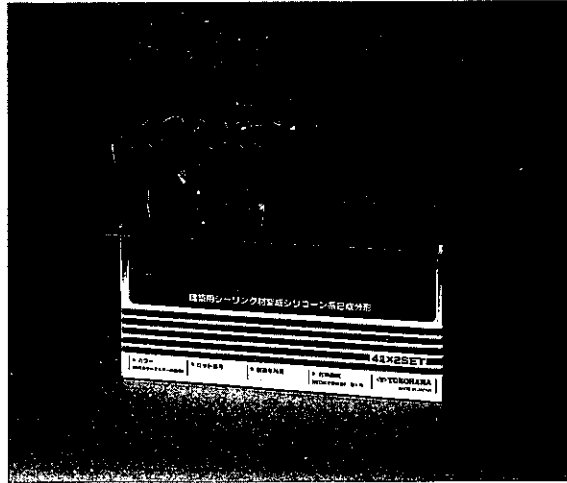
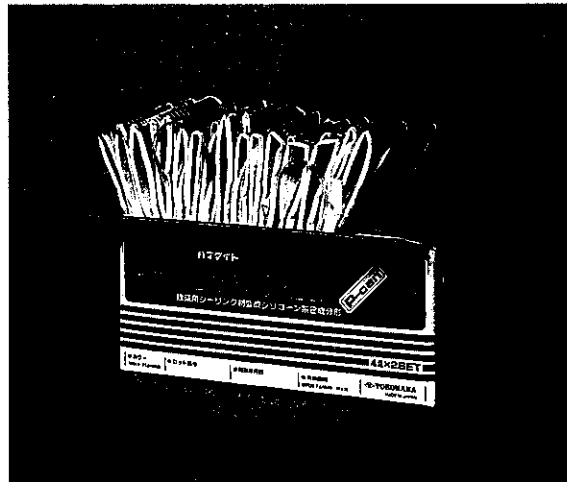
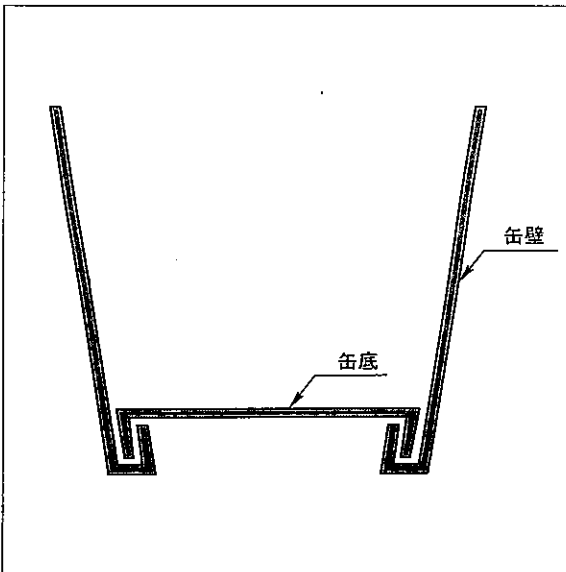


図1



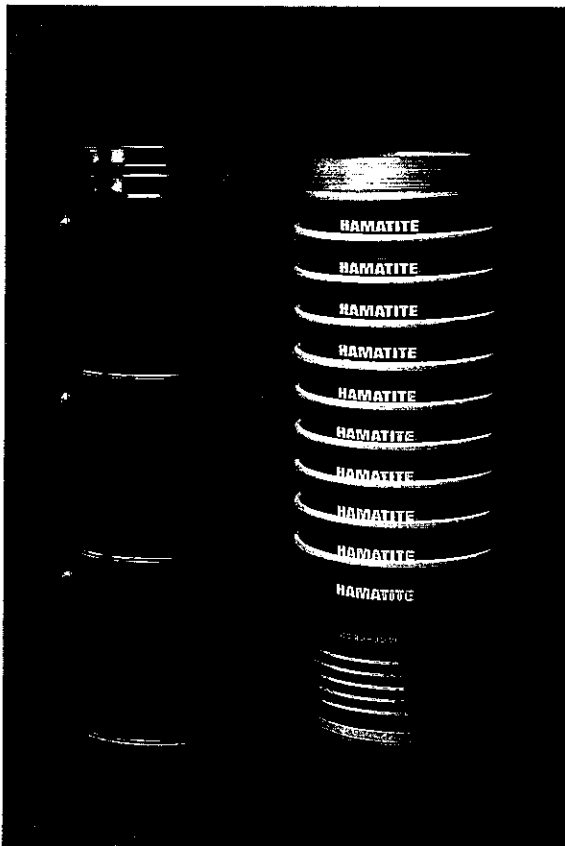
このように缶を解体することにより、容易に廃却容積を大幅に減少することができ、また回収コストも大幅に低減することができる。(写真1参照)

以上の通り「紙製容器」は解体手間が大幅に軽減できるだけでなく、ブリキ缶に比べ解体作業時の安全性が向上する。

2. 積み重ねることにより廃棄容積が減量できます。

ブリキ缶がストレートな円筒缶であるのに対し「紙製容器」は2度のテーパが付いているため空缶を積み重ねることが可能になった。(写真2参照)

写真2



また、蓋の方も積み重ねることができる。これにより解体処理をしなくても、10缶積み重ねただけで廃却容積をブリキ缶の約1/3にすることができる。また、作業終了時解体処理する場合でも、保管スペースの削減という意味で職場の整理・整頓に役立つ。

表1

つぶして箱に入れた場合の廃却容積の比較

	ブリキ缶	「P-Can」
缶容積/缶	6.9ℓ	8.4ℓ
重量/缶	525g	190g
缶をつぶした時ダンボールに入る缶数	14缶	28缶
つぶした時の処理済容積	37.5ℓ	45.5ℓ
廃却容積/缶	2.7ℓ	1.6ℓ
ブリキ缶をそのまま廃却した場合に対する減量率	61%	77%

10缶積み重ねた場合の廃却容積の比較

	ブリキ缶	「P-Can」
缶容積/缶	6.9ℓ	8.4ℓ
重量/缶	525g	190g
処理済缶容積/缶	6.9ℓ	2.8ℓ
処理済蓋容積/缶	0.2ℓ	0.1ℓ
廃却容積/缶	7.1ℓ	2.9ℓ
減量率	0%	59%

紙製容器の利点と欠点

	紙製容器	ブリキ缶
廃棄処分	焼却	埋設
解体	簡単かつ安全	手間
積み重ね	可	不可
作業性	ブリキと同様	
強度	×	○

横浜ゴムの産業廃棄物対策の第1弾として「紙製容器」を用意し、今後更に「再利用」まで配慮した、より地球にやさしい責任ある製品の開発を進めたいと思う。

〈横浜ゴム(株)MB生産本部ハマタイト工場〉



## 技術情報シート

## 〈Bグループ会員名簿〉

社 名	営 業 品 目	担当者名	連絡先(TEL)
B-1 防水メーカー			
大関化学工業(株) サンスター技研(株) (株)ダイフレックス 田島ルーフィング(株) 日新工業(株) (株)ニチロン 日本化成(株) (株)ヤマデ 横浜ゴム(株) ロンシール工業(株)	特殊機能性防水材等建築仕上材料 シーリング材・接着剤 屋上防水材, 内外装材, スポーツ舗装材 総合防水材料メーカー 総合防水材料メーカー 防水材, シーリング材 コンクリート劣化防止材料等機能性材料 ハイテクノロジー防水システム 建築用シーリング材, ウレタン塗膜防水材 特販推進部	大 辻 敏 朗 大 中 義 夫 黒 澤 日出男 和 智 修 彦 藤 範 二 佐 藤 武 宮 島 直 樹 夏 間 孝 夫 山 田 泰 昌 和 深 徹	03-3582-7371 03-5410-1710 03-3230-4311 03-3863-5631 03-5644-7212 03-3833-5333 03-5389-1261 03-3861-1124 03-5400-4821 03-5600-1821
B-1 防水施工業者			
(株)ケルビン 高山工業(株) 日新建工(株) 三星産業(株)	止水, モルタル, 塗膜, 浸透, シート防水施工 防水, 防熱工事, 建築音響設計施工 アスファルト防水工法 防水全般, アコシート防水, 防熱工事	猪 熊 雄 司 伊 藤 秀 文 土 橋 浩 一 伏 見 雅 光	03-3863-0141 03-3265-5631 03-3870-6231 03-3292-1961
B-2 左官・塗装・吹付けメーカー			
旭硝子コートアンドレジジン(株) エスケー化研(株) 鐘淵化学工業(株) 関西ペイント(株) 大日本塗装(株) 秩父コンクリート工業(株) 日本ペイント(株) 山本窯業化工(株)	フッ素樹脂塗料, 外装吹付材, 防水材 建築仕上塗料, セラミック, 耐火被露材 アクリルシリコン塗料, 変成シリコン系シーリング剤 総合塗料メーカー, 建築外装, 内装材 塗料全般, 外装材, 床用塗材 左官材料総合メーカー, 耐摩耗床仕上材 塗料全般, 外装材・床用塗材 建築内外装, 仕材塗材, 石調シート貼材	岩 田 洋 村 上 秋 雄 広 政 誠 竹 内 敏 夫 磯 田 博 司 石 井 俊 行 福 田 敏 男 久 保 一 誠	03-3552-4345 03-3953-3631 03-3479-9675 03-3472-3111 03-5710-4503 03-3816-5951 03-3740-1125 03-3265-8888
B-2 左官塗装・吹付け販売			
オーウェル(株)	塗料全般及び建築材料販売	鹿 野 純 彦	03-3458-9123
B-2 左官・塗装・吹付け施工業者			
(株)アイ・ピー21 (株)イワサ	新築・改修塗装, 内外装リフォーム等 建築塗装工事, 外壁改修工事	鈴 木 二 郎 増 田 聡	03-3293-4801 03-3813-7666

Bグループ担当交流委員 松浦 一, 前島正光, 大竹 肇, 飯田 旭

## 〈賛助会員各グループ構成一覧〉

Aグループ (A1-仮設・土木・杭, A2-コンクリート・鉄筋, A3-鉄骨)

Bグループ (B1-防水, B2-左官・塗装・吹付)

Cグループ (C1-ALC・PC・セメント板, C2-石, C3-タイル, C4-屋根・金属, C5-建具・ガラス・プラスチック)

Dグループ (D1-エクステリア・内装工事, D2-家具, D3-インテリア・材料)

Eグループ (E1-電気設備施工, E2-電気設備メーカー, E3-搬送設備)

Fグループ (F1-空調衛生施工, F2-空調衛生メーカー, F3-エネルギー)

Gグループ (G1-CAD, G2-情報処理)

イベントセミナー情報

JIA 都市デザインセミナー'95 「人・生活・都市-建築家の役割-」  
第14回 「まちづくりにおけるボランティア活動とNPO」

日 時：1996年1月22日(月) 18:30~20:30 (開場：18:00)  
会 場：建築家会館1階ホール 参加費：2,000円 学生：1,000円(当日徴収)  
講 師：金子郁容(慶應義塾大学)・松原 明(C's・市民運動を支える制度をつくる会)  
申込先：JIA 関東甲信越支部 主 催：JIA 関東甲信越支部・デザイン部会・都市デザイン分科会

世界びっくり仰天建築シリーズ 第3回 トルコの Cappadocia

日 時：1996年2月23日(金) 13:30~16:30 参加費：3,000円・学生1,000円(当日徴収)  
会 場：INAXアーキブラザ7階会議室(中央区京橋3-6-18)(申込先着順100名)  
講 師：前野まさる(東京芸術大学教授) 司 会：茶谷正洋(法政大学教授)  
●講師略歴：1932年中華人民共和国長春市生まれ/1959年東京芸大美術学部建築科卒業/1963年東京芸大助手/  
現在東京芸大美術学部教授/建築史を教える一方、Cappadocia(トルコ)やライヒエナウ(ドイツ)の教会建築調査に参加すると共に、日本各地の町並み調査にも関わっています。  
申込先：JIA 関東甲信越支部 主 催：JIA 関東甲信越支部・事業委員会 協 賛：株式会社 INAX

(仮) 定期借地権付マンションは得か損か

日 時：1996年2月7日(水) 18:30~21:00 会 場：建築家会館1階ホール  
参加費：2,000円(当日徴収) 申込先：JIA 関東甲信越支部 主 催：デザイン部会・企画商空間分科会  
\*詳細は次号にてお知らせ致します。

JIA トーク'95 『想』全4回  
第4回 ガストン・プチ 「宗教に於ける形とシンボルーその精神性と芸術性」

日 時：1996年2月1日(木) 18:30~20:30 (開場：18:00) 参加費：無 料  
会 場：建築家会館1階ホール 講 師：ガストン・プチ(神父・画家・アジア文化研究家)  
●講師経歴：1930年カナダ、ケベック州に生まれる/1952年ドミニコ会修道者となる/1959年司祭に任命される/  
1963年洛星修道院小聖堂(京都)のデザインを担当、聖ドミニコ渋谷カトリック教会(東京)のステンド・グラスを制作/  
1967年清泉女学院小聖堂(鎌倉)のデザインとステンド・グラスの制作を担当/1968年在京ローマ法王庁大使館内礼拝堂のデザインを担当/1983年松濤美術館賞を受賞/1985年聖ヨゼフ教会(横浜)の大ステンド・グラスを制作/  
1986年自作のステンド・グラスを高円宮殿下へ贈呈/1989年松濤美術館にて個展を開催/1992年横浜美術館、モントリオール植物園内日本館にて個展を開催。 申込先：JIA 関東甲信越支部  
主 催：JIA 関東甲信越支部・JIA トーク実行委員会 協 賛：日新工業株式会社



\*お申し込みになるイベントを○で囲んで支部事務局宛にFAXまたは郵送にてお送り下さい。  
まちづくりにおける・・・/トルコのCappadocia/定期借地権付・・・/トーク第4回 <ファックス送付先03-3408-8294>

氏 名	所属事務所・会社名	TEL
所属先住所		FAX

# TEA・ティー・ルーム



支部長の  
齋藤孝彦

## LFの知的財産を協会内に開放

関東甲信越支部が通称LF懇〔ラージファーム懇談会〕を発足させてから1年余が経ちました。もともとLF懇の構成員は全国的に仕事をしている事務所が主なので、支部よりも本部に所属する方が自然ではないか、との声が多く、やっとこの10月から本部に移ることになりました。

これを機会に簡単な規約を作ったところ、理事の一人から、本来個人の集まりである筈のJIAに事務所の会を作るのはおかしいのでは、というご批判をいただきました。

しかし、私はLF懇は事務所を構成員とすることに賛成です。その理由の第1は、残念なことですが未だ個人の意識と組織の行動との間には差があるのが現実であり、そうした二重構造を解消するためには個人の枠組みで集まるより事務所の意志が表に出る形の方が有効であると考えたからです。

第2に、LF懇設立の目的は組織事務所の持つ人材・情報などの知的財産を広くJIA内部に開き、JIAを支援することにあります。そのためにはどうしても財産の所有者である事務所の意志による参加が必要です。

個人という枠組みだけで集まっても組織が持っている利点や欠点はなかなか表面化しません。現実にはJIAメンバーの事務所の平均所員数は2人強で、そのためJIAの意見はとかく小事務所に偏りがちなのが実態です。

私は個人の集まりであるJIAに敢えて事務所単位の会を作り、有力メンバーでもある組織事務所のもてる知的財産をその悩みと共にJIA全体のものとして受け止めていきたいと考えています。

## 編集後記

昨年の8月に、JIA設立当初より支部の事務局長をしておりました高野孝次郎氏の本部への異動（現在、事務局長）にとともに、事務局長を引継ぐこととなり、高野氏の異動に合わせて本部から支部に異動があった原田譲治現支部事務局次長を迎え、現在、職員7名にアルバイト1名の構成で支部事務局を運営しています。（本文中に事務局スタッフ掲載・参照）

支部では、委員会、部会、地域クラブ、賛助会員と幅広く、多岐にわたる活動が会員諸氏の積極的な参加や協力のもと展開が図られています。支部事務局としても日常の業務を通して、各活動のサポートを行っておりますが、毎月の常置活動以外にも定期的発行物の編集・刊行、書式頒布、各種行事（イベント）などが年間のサイクルの中で様々な形でかわりがあるため、それぞれ職員で役割分担をしながら対応を図っているのが現状です。

自分自身としてまだなかなか事務局全般を掌握するにはキャリアと時間を要するとは思いますが、支部事務局各員の協力を得て、各活動がより充実、活性化していくように努力したいと思うとともに、この機関誌を通じて広く活動の発信が出来ればと思っています。（発行人）

### ——年末年始の事務取り扱いについて——

当支部事務局の年末年始のお休みは12月29(金)から1月4日(木)までです。

編集／社団法人 新日本建築家協会  
関東甲信越支部広報委員会

委員長・小倉 浩  
副委員長・真鍋喜嗣  
委員・阿部 肇、猪狩 茂、大隈 哲、川岸梅和  
郡山 毅、中山庚一郎、林田 研、藤本幸夫

編集長／真鍋喜嗣

編集委員／今井 均、大隈 哲、郡山 毅、  
渡辺武信

事務局 坪内靖弘、福森まゆみ

発行人／菊地良一

発行所／社団法人 新日本建築家協会

関東甲信越支部

〒150 東京都渋谷区神宮前2-3-16

建築家会館

TEL 03-3408-8291(代) FAX 03-3408-8294